

医学概論		講義	教授 柳田 浩義
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13341101

1. 授業のねらい・概要

本授業は、これまでの医学や医療の歴史を通して、医学とは何か、人の生、自己意思、命の尊さ、研究倫理や死の概念といった生命倫理について理解を深め、さらに医学の分野に特化した健康と病気の定義、予防医学や最新の医学についても理解する。

2. 授業の進め方

テキストの内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。適宜、論文や新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

1. 医学の定義とその使命 医学とは何か、医学の使命について理解する。 2. 医学の歴史 近年医学の発展や概要について理解する。 3. 医の倫理学 医学や医療に携わる上で必要となる倫理観についての理解を深める。 4. 先天異常と出生前診断 先天異常と出生前診断について理解し、生命の誕生に関する理解を深める。 5. 周産期・新生児医療 周産期および新生児医療についての理解を深める。 6. 子供の事故 子供の事故の現状を理解し、その問題点について理解を深める。 7. 小児の虐待 小児の虐待の現状と救急隊員が関わる意義について学修する。 8. 小児の感染症 小児に特有の感染症について理解する。	9. 小児救急 小児の救急疾患とその対応について理解を深める。 10. 緩和医療と安楽死 終末期医療の実際と尊厳死・安楽死について理解し、人の「生」と「死」についての倫理観についての理解を深める。 11. 脳死・臓器移植 植物状態と脳死の違いや、臓器移植に伴う法律や実施手順を理解する。 12. 血液事業と輸血 本邦の献血から輸血までの流れを理解し、その意義について理解する。 13. 予防医学 ワクチンによる感染症予防について学修する。 14. アレルギー・免疫 アレルギー・免疫疾患とその救急対応を学修する。 15. 現代医学 新興感染症・がん・最新医学（iPS細胞等）の現況を学ぶ。
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験などの問題を実践、解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 医学の歴史から、人と病気の関連性を理解する。
- 2) 予防医学の観点から、現代における「健康と病気の定義」について理解する。
- 3) 「ヒポクラテスの誓い」を始めとして、その後提言された内容から、様々な生命倫理学の諸問題を理解する。
- 4) 人の「死」という概念を医学的に理解できる。
- 5) 人の命や健康を重んじた言動や行動が、「救急処置演習や実習」で実施できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト： 北村 論著，医学概論 改訂8版，中外医学社，2023年

参考文献： 小関一英編，2023年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集，晴れ書房，2022年
適宜指定する教材

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また，参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の3分の1（6回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

医学系授業の基礎となり，医療従事者であれば常に考え，身につけなければならない学習内容である。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

救急医学		講義	教授 千明 政好	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野	科目ナンバリング		13341301

1. 授業のねらい・概要

救急医学分野のうち、特定行為を必要とする救急救命処置についての法律・倫理的・メディカルコントロール・医学的観点に鑑み、心肺蘇生の必要性や救急救命処置の医学的效果について理解できる。また、拡大を続ける救急救命士の特定行為についてその変遷・歴史的な背景を理解できる。

2. 授業の進め方

参加型授業を提案し、双方向的な授業を実現できるようにする。前週に実施した授業を確実に理解することとする。理解を深めるよう画像・動画も使用した説明を行うとともに、学生自ら習得した知識を活用したアクティブラーニングによる授業展開を行う。

3. 授業計画

回	授業内容	授業形態	担当
1	救急救命士の行う救急救命処置の内容・特定行為	講義	千明政好
2	心原性心肺停止の病態と非心原性心肺停止の病態	講義	千明
3	心肺停止の病態と救命の連鎖	講義	千明
4	救急救命士における心肺蘇生と病態	講義	千明
5	救急救命士におけるインフォームドコンセント	講義	千明
6	救急救命士における気管挿管の実際と効果	講義	千明
7	救急救命士における静脈路確保の実際と効果	講義	千明
8	第1回～第7回までの講義のまとめ および 小テスト1回目	講義	千明
9	救命に使用する薬剤投与の適応と効果	講義	千明
10	救急救命処置におけるメディカルコントロール	講義	千明
11	意識障害の病態と治療	講義	千明
12	各種ショックの病態と治療	講義	千明
13	救急医療における死について	講義	千明
14	院内で使用する薬剤について	講義	千明
15	1回～14回までのまとめ および 小テスト2回目	講義	千明

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1) 予習（必要時間：約 60 分）

授業計画を参考に、該当授業箇所について予習すること。

2) 復習（必要時間：約 60 分）

テキストの授業該当箇所と配布資料などをもとに復習し理解を深めること。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 筆記試験

小テスト2回、期末試験1回、各試験実施直後に解答と解説を行う。

2) 課題

毎回授業の初めに15分程度の予習を課す。すべての項目を記入し提出すること。授業中に内容を説明する。

6. 授業における学修の到達目標

救急医学分野のうち、病院前救急医学で、救急救命士が行うもっとも重要な重度傷病者に対する特定行為、心肺蘇生に関する病態・処置・法的・倫理的問題について完全に理解できる。

到達目標

- 1) 救急救命士として変化し続ける救急救命処置と特定行為の病態を理解できる
- 2) 救急救命士処置の法的な背景、特定行為の要件の理解できる
- 3) 特定行為とメディカルコントロールの理解できる
- 4) 処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力と思考力の獲得ができる

7. 成績評価の方法・基準

1) 成績評価の方法

a) 筆記試験 (100 %)

イ) 小テスト 2 回 (50%)・期末試験 (50 %)

ロ) 合計点数の 60%以上を合格とする。

ハ) 再試験は実施しない。

ニ) 受験資格として 3 分の 2 以上の出席かつ、全ての課題が提出されていること。

8. テキスト・参考文献

救急救命士標準テキスト編集委員会：改訂第 11 版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）2025.

JPTEC 協議会編著：改訂第 2 版補訂版 JPTEC ガイドブック（へるす出版）2022.

適宜指定する教材

9. 受講上の留意事項

授業時間中はスマートフォン使用禁止、イヤホン使用禁止、帽子着用禁止とする。従わない場合は退室させ欠席扱いとする。授業中にもかかわらず学生同士の会話等がひどい場合は授業妨害と判断し退出させ欠席扱いとする。

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、大学病院救命救急センターや集中治療室等における 20 年以上の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。救急救命士コースの専門科目である。

薬理学		講義	教授 田中 基晴
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13341401

1. 授業のねらい・概要

本科目は、救急救命士国家試験受験指定科目に設定されており、救急救命士として必要な薬理学の基礎知識の修得を学習目標としている。本講義では、薬物の体内動態、薬理作用、種々の薬物の臨床応用など薬理学全般について講義する。

2. 授業の進め方

救急救命士国家資格取得のための専門分野科目となるため、理解を深めるよう画像も使用した説明を行う。薬理学は生化学、生理学といった基礎医学の知識の上に成り立っている学問であり、必要に応じて基礎医学についても説明する。また、臨床医学にも関わっていることから、主な病態に関する病態メカニズムについても言及する。

3. 授業計画

1. 総論(1) 薬物とは何か、薬物と法律、薬理作用と作用機序（受容体、チャネル、トランスポーター） 2. 総論(2) 薬物の反応に影響を与える因子(薬物側の因子、生体側の因子、競合阻害、非競合阻害)、薬物動態(投与方法、吸収、分布、代謝、排泄) 3. 中枢神経・自律神経系 脳、部位別の機能および自律神経系に関する概要 4. 脳の疾患 精神疾患（統合失調症）、パーキンソン病、てんかん、躁うつ病、認知症（アルツハイマー型、血管性） 5. 脳と薬物依存 薬物依存に関する概要、覚せい剤、麻酔(オピオイド、コカイン、幻覚薬)、麻酔薬 6. 循環器系 血液循環に関する概要、強心薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬、降圧薬 7. 血液・泌尿器系 血液凝固に関する概要、抗血栓薬（抗凝固薬、血小板機能阻害薬、血栓溶解薬）、止血薬、腎臓作用薬（利尿薬）	8. 呼吸器系 呼吸機能に関する概要、喘息治療薬、鎮咳薬、COPD治療薬 9. 消化器系 消化器の働きに関する概要、潰瘍治療薬、肝臓疾患治療薬、毒物と解毒薬 10. 内分泌系 内分泌系の働きに関する概要、糖尿病治療薬、高脂血症治療薬、バセドウ氏病治療薬、骨粗鬆症治療薬 11. 炎症・免疫系 炎症と免疫に関する概要、抗炎症薬、免疫抑制薬、免疫賦活薬 12. 抗感染症薬 病原微生物に関する概要、抗菌薬、抗ウイルス薬 13. 抗腫瘍薬 腫瘍発生と増殖のしくみに関する概要、各種抗癌薬（化学療法薬、ホルモン治療薬、分子標的薬、免疫賦活薬）の作用メカニズム 14. 救急に必要な薬 主な薬の副作用、急性中毒に対する薬、消毒薬、輸液製剤など 15. まとめ
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1) 予習（必要時間：約 50 分）

- a) 次週の予習内容を伝える。下記のイ) -ロ) に示す2項目を学生に提示する。

イ) 学習概要

ロ) 受講するにあたり必要な専門用語の説明

2) 復習（必要時間：約 40 分）

- a) 授業内容整理

各単元終了後に「まとめ」を提示して知識の確認を行うので、「まとめ」を十分理解、記憶するように復習する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 筆記試験

- a) 正解は貼りだす。
- b) 解説は、不正解問題を中心に行う。

6. 授業における学修の到達目標

救急救命士に必要な薬理学の基本的知識を身につけるとともに国家試験問題を解答・解説できるレベルへの到達を目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

1) 成績評価の基準

主に救急救命士に必要な薬理学の基本的知識の習得に関して、その到達度によって成績評価を行う。

2) 成績評価の方法

受講態度（出欠・遅刻・早退、 など）（30 %）。(スマホ閲覧を禁止しています)

筆記試験（70 %）。

8. テキスト・参考文献

テキスト：改訂第 10 版救急救命士標準テキスト

テキスト：いちばんやさしい薬理学 木澤靖夫 成美堂出版 2020 年

9. 受講上の留意事項

事前に高校生物，生化学，解剖生理学の知識を復習しておくこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。製薬会社における新薬開発の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

外科学概論		講義	教授 柳田 浩義
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目 救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	12321305 13351201

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師や救急救命士は、独立した施設で働くことが多く、専門分野以外についても幅広い医学的知識が必要である。本授業では、外科的に取り扱う代表的な疾患を学び、将来、臨床の現場で活躍するための基礎力をつける。

2. 授業の進め方

テキストの内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。適宜、論文や新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

1. 損傷・創傷・熱傷	9. 胸壁・呼吸器疾患
2. 炎症と外科感染・腫瘍	10. 心臓・脈管疾患①（心臓疾患）
3. ショック・輸血と輸液	11. 心臓・脈管疾患②（脈管疾患）
4. 消毒と滅菌・手術・麻酔	12. 腹部外科疾患①（主な症状と検査）
5. 移植と免疫・出血と止血・心肺蘇生法	13. 腹部外科疾患②（食道・胃十二指腸・大腸疾患）
6. 脳神経外科疾患①（脳・神経疾患の主要徴候）	14. 腹部外科疾患③（肝・胆・膵疾患）
7. 脳神経外科疾患②（主な脳・神経疾患）	15. 腹部外科疾患④（その他の腹部外科疾患）
8. 甲状腺・頸部・乳腺疾患	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験などの問題を実践、解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各外科疾患の病態、症状、診断法、外科的処置を理解し説明できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：炭山嘉伸編，全国柔道整復学校協会監修，外科学概論 改訂第4版，南江堂，2012年
参考文献：明治東洋医学学院編集委員会編，2024 第22回～第31回 徹底攻略！国家試験過去問題集 柔道整復師用，医学の日本社，2023年
適宜指定する教材
テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また，参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の3分の1（6回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

内科学 I		講義	教授 柳田 浩義
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目 救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	12321302 12351202

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師や救急救命士は、独立した施設で働くことが多く、専門分野以外についても幅広い医学的知識が必要である。診察の基本を学び、柔道整復師や救急救命士が臨床の現場で注意を払わなければならない症状・所見や各種検査、処置・治療、および各疾患の病態を理解する。

2. 授業の進め方

テキストの内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。適宜、論文や新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

1. 診察概論、医療面接	9. 生命徴候（体温、血圧、脈拍、呼吸）
2. 視診①（体格・体型、体位・姿勢、栄養・精神状態）	10. 感覚検査（表在感覚、深部感覚、複合感覚など）
3. 視診②（異常運動、歩行、皮膚）	11. 反射検査①（種類、意義、表在反射、腱反射）
4. 視診③（頭部・顔面、頸部、胸部、腹部）	12. 反射検査②（病的反射、クロウヌス、自律神経反射）
5. 視診④（背部・腰部、四肢）	13. 臨床症状①（発熱、出血傾向、リンパ節腫脹など）
6. 打診、聴診（肺・心臓）	14. 臨床症状②（関節痛、浮腫、肥満、やせ）
7. 聴診（腹部）、触診（皮膚・皮下組織、筋肉）	15. 検査法（生命徴候、生理機能、検体、運動機能）
8. 触診（骨・関節、胸部、腹部、リンパ節）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験などの問題を実践、解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

柔道整復師、救急救命士として必要な一般臨床医学の知識を修得する。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：全国柔道整復学校協会監修、一般臨床医学 改訂第3版、医歯薬出版株式会社、2013年

参考文献：明治東洋医学院編集委員会編、2024 第22回～第31回 徹底攻略！国家試験過去問題集 柔道整復師用、医学の日本社、2023年

小関一英編、2023年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集、晴れ書房、2022年
適宜指定する教材

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の3分の1（6回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおりである。

内科学Ⅱ		講義	教授 柳田 浩義
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門基礎科目 救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	12321302 12351203

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師や救急救命士は、独立した施設で働くことが多く、専門分野以外についても幅広い医学的知識が必要である。診察の基本を学び、柔道整復師や救急救命士が臨床の現場で注意を払わなければならない症状・所見や各種検査、処置・治療、および各疾患の病態を理解する。

2. 授業の進め方

テキストの内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。適宜、論文や新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

1. 呼吸器疾患（総論、各疾患）	9. 腎・尿路疾患①（総論、腎不全）
2. 循環器疾患（総論、各疾患）	10. 腎・尿路疾患②（糸球体疾患、間質の疾患など）
3. 消化器疾患①（総論、消化管疾患）	11. 神経疾患①（総論）
4. 消化器疾患②（肝胆膵疾患、腹膜疾患）	12. 神経疾患②（各疾患）
5. 代謝疾患①（総論、糖尿病）	13. 感染症①（総論）
6. 代謝疾患②（脂質異常症、肥満症など）	14. 感染症②（各疾患）
7. 内分泌疾患（総論、各疾患）	15. リウマチ・膠原病・アレルギー、環境要因による疾患
8. 血液・造血器疾患（総論、各疾患）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験などの問題を実践、解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

柔道整復師、救急救命士として必要な一般臨床医学の知識を修得する。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：全国柔道整復学校協会監修，一般臨床医学 改訂第3版，医歯薬出版株式会社，2013年

参考文献：明治東洋医学学院編集委員会編，2024 第22回～第31回 徹底攻略！国家試験過去問題集 柔道整復師用，医学の日本社，2023年

小関一英編，2023年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集，晴れ書房，2022年
適宜指定する教材

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の3分の1（6回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおりである。

予防医学		講義	客員教授 横江 隆夫
科目カテゴリ	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13351301

1. 授業のねらい・概要

予防医学の基礎概念，統計的手法，医学的根拠（EBM）の考え方及び生活習慣病の概念などを理解する。

2. 授業の進め方

予防医学として体を動かしながら，アクティブラーニング方法で授業を進める。また，理解を深めるよう画像・動画も使用した説明を行うとともに，学生自ら習得した知識を活用したアクティブラーニングによる授業展開を行う。

3. 授業計画

1. 予防医学（救急医学）概論 本科目の学修内容について理解を深める。救急の歴史，メディカルコントロールについて学ぶ。 2. 疾病学・臨床推論。 診断の進め方，推論法について具体的な例をもとに学ぶ。 3. 出血・創傷処置 出血の種類と生理学的反応，救急処置。創傷の種類とその対応について学ぶ。 4. 環境因子による障害（熱中症，低体温症） 熱中症の疫学と対処法，低体温症の疫学・蘇生処置について学ぶ。 5. 環境因子による障害（減圧症，高山病） 減圧症の生理と治療，高山病発症のメカニズムと対処法を学ぶ。 6. 眼損傷，溺水 眼の外傷，物理的損傷，化学損傷，異物について学ぶ。溺水の疫学，特徴，対処法について学ぶ。 7. 中毒学 中毒学総論：中毒の原因，統計。中毒の原因物質と特異的症状・拮抗薬 中毒各論：覚醒剤および違法薬物，薬物過量，有機溶剤，有毒ガス，医薬品，農薬，有毒動物，有毒植物，食中毒，工業用剤などの症状，対処法，搬送上の注意などについて学ぶ。	8. 爆発物・テロ対策 爆発物の種類と損傷，テロの対策，広域災害のDMAT対応と支援について学ぶ。 9. 統計学の基本 マスメディアや論文などに見られる統計結果の解釈と真偽の判定。データ分析の手法，統計検定の種類とその使い方，実際の応用について学ぶ。 10. EBM とメタアナリシス 分析疫学の方法，メタアナリシスの原理と応用，オッズ比の意味について理解する。心肺蘇生ガイドラインにみるメタアナリシスの結果と解釈について学ぶ。 11. 高齢者の救急 高齢者の生理学的，身体的特徴と疾病との関係。高齢者の傷病と搬送場の注意について学ぶ。 12. 生活習慣病 肥満，糖尿病，高尿酸血症などの病態と治療について学ぶ。 13. 腫瘍学 癌の発生と免疫機構と疫学，臓器別悪性腫瘍と治療について学ぶ。 14. 癌と救急 癌の進展・再発による症状と救急搬送事例，抗癌剤などの副作用による救急搬送事例について学ぶ。 15. 臨床演習 1回から14回までの内容の確認試験を行う。
--	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1) 予習（必要時間：約 50 分）

a) 教員はデジタル教材を使用し，下記のイ) -ロ) に示す 2 項目を学生に提示する。

イ) 学習概要

ロ) 受講するにあたり必要な専門用語の説明

b) 講義中に学習内容に関する問題を提示する

2) 復習(必要時間：約 40 分)

a) 授業内容整理

講義で配布したハンドアウト資料を整理する。

b) 授業内容の再確認

前回の講義時に提示・解説された問題や国家試験問題について復習し回答できるようにしておく。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 筆記試験

a) 試験問題について解答を口頭で発表をする。

b) 不正解選択肢についても解説する。

2) 課題

a) 教員は学生が提出した課題に評価とコメントによりフィードバックをする。

b) 課題コメントで重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

予防医学の基礎用語を理解し実際の応用ができるようになる。(例: スクリーニング検査における感度, 特異度, 有病率と陽性反応の中率, 陰性反応の中率の関係を理解し計算ができること)

7. 成績評価の方法・基準

1) 成績評価の基準

疫学の基礎概念の理解を基に, 統計学的手法について理解できている。

2) 成績評価の方法

授業内容の整理・提出 (20%), 筆記試験 (80%)。

8. テキスト・参考文献

改訂第 11 版救急救命士標準テキスト

はじめて学ぶ やさしい疫学(改定第 4 版) (日本疫学会監修, 南江堂)

市原清志: バイオサイエンスの統計学. 南江堂, 2020

適宜指定する資料

9. 受講上の留意事項

本科目は, 本コースの全学生が履修しなければならない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は, 医療機関等における臨床経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

脳神経外科学・眼科学・耳鼻咽喉科学・口腔外科学		講義	教授 柳田 浩義 教授 千明 政好 非常勤講師 山口 貴子	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13361201	

1. 授業のねらい・概要

救急医療において必要な頭部および顔面に関連する病態生理と各疾患についての理解を深め、知識を修得する。

- 1) 中枢神経系（脳・脊髄）の解剖と機能の概要、および頭蓋内病変により生じる各疾患の病態と救急現場において見落としてはならない神経学的所見を学修する。
- 2) 感覚器が集中する頭頸部領域に発生する疾患は多岐におよぶため、それらの特徴を理解するとともに、各疾患についての知識を修得する。

2. 授業の進め方

テキストの内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。適宜、論文や新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

1. 頭部の解剖生理の理解 救急症候や疾病を学ぶために必要な頭部の解剖・生理についての知識を整理する。 2. 脳神経系の構造と機能の理解 中枢神経系の特殊性、神経機能と脳の解剖学的関係について理解する。 3. 中枢神経系の特異な徴候 意識障害・頭痛・けいれんの分類、特徴の理解を深めるとともに、評価スケール（Japan Coma Scale, Glasgow Coma Scale）などを学修する。 4. 脳腫瘍 代表的な脳腫瘍の種類と症状や治療について理解する。 5. 出血性の脳卒中・脳血管障害 病態による分類と代表的疾患（くも膜下出血・高血圧性脳出血）の症状や治療について理解する。 6. 虚血性の脳卒中・脳血管障害 病態による分類と代表的疾患（脳梗塞）の症状や治療について理解する。 7. 頭部外傷、水頭症 病態による分類と代表的疾患（頭蓋骨骨折、急性硬膜外血腫・急性硬膜下血腫・脳挫傷など）の症状や治療について理解する。	8. 脊髄・脊椎疾患、末梢神経外科 脊髄血管障害、脊髄炎、末梢神経障害について理解する。 9. 耳鼻咽喉科に関する疾患 良性発作性頭位めまい症・メニエール病・突発性難聴を中心に各々の特徴、病態や症状について理解する。 10. 眼の疾患 急性緑内障発作、白内障、眼外傷を中心に各々の特徴、病態や症状について理解する。 11. 口腔の疾患 口腔外傷に焦点を当てて、発生機序、症候や処置について理解する。 12. 顔面・頸部の解剖生理の理解 救急症候や疾病を学ぶために必要な顔面・頸部の解剖・生理についての知識を整理する。 13. 咽喉頭・食道の疾患 呼吸器系や消化器系疾患との関連性を含めて、咽喉頭・食道の疾患について理解する。 14. 気道確保 傷病者にとって侵襲および非侵襲的な気道確保の種類と特徴についての理解を深める。 15. 第10回～14回までのまとめを行う。
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験などの問題を実践，解答させる。問題解答の際，また定期試験実施の際，解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 脳神経の解剖および機能と救急医療における脳神経外科疾患の病態を理解する。
- 2) 眼科・耳鼻咽喉科・口腔外科領域の臓器の特徴や病態を理解し，疾患に遭遇した際の適切な対応を修得する。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%），定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：生塩之敬，種子田護，山田和雄 編，ニュースタンダード脳神経外科学 第5版，三輪書店，2024 年
参考文献：小関一英編，2023 年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集，晴れ書房，2022 年
テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また，参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子的着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の3分の1（6回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

産婦人科学・精神医学		講義	教授 柳田 浩義 教授 千明 政好
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13361202

1. 授業のねらい・概要

本授業は、妊娠・分娩に関する病態生理の体系的な理解と臨床現場で適切な対応が行えるための知識を修得する。また、精神疾患の公衆衛生、臨床および社会資源などについても理解を深める。

2. 授業の進め方

テキストの内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。適宜、論文や新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

1. 妊娠・分娩救急疾患①（正常妊娠） 「正常妊娠」について理解する。 2. 妊娠・分娩救急疾患②（正常分娩） 「正常分娩」について理解する。 3. 妊娠・分娩救急疾患③（異常妊娠） 「異常妊娠」を知るために、正常妊娠との病態的な違いを比較しながら理解を深める。 4. 妊娠・分娩救急疾患④（異常分娩） 「異常分娩」を知るために、正常分娩との病態的な違いを比較しながら理解を深める。 5. 妊娠・分娩救急疾患⑤（産科救急） 妊婦・産褥期の救急疾患と妊婦搬送時の注意とその介助についての理解を深める。 6. 妊娠・分娩救急疾患⑥（外傷・心肺蘇生） 妊婦外傷の初期診療と心肺蘇生法について学修する。 7. 周産期・新生児医療 周産期医療と新生児の生理や心肺蘇生法について理解する。 8. 精神医学概要 精神疾患の公衆衛生、臨床、社会資源などについての理解を深める。	9. 診断学（精神科診断）と処置論（精神科における処置と治療） 臨床現場でどのように精神疾患患者に診断と処置および治療が行われているかの理解を深める。 10. 疾病学（統合失調症） 統合失調症の病態、症状、観察、対応、重症度・緊急度判断、病院選定についての理解を深める。 11. 疾病学（気分障害） 気分障害の病態、症状、観察、対応、重症度・緊急度判断、病院選定についての理解を深める。 12. 疾病学（神経症性障害・睡眠障害） 神経症性障害・睡眠障害の病態、症状、観察、対応、重症度・緊急度判断、病院選定についての理解を深める。 13. 疾病学（器質性精神障害） 器質性精神障害の病態、症状、観察、対応、重症度・緊急度判断、病院選定についての理解を深める。 14. 疾病学（児童思春期の精神障害） 統合失調症の病態、症状、観察、重症度・緊急度判断、病院選定についての理解を深める。 15. 確認試験 第8回～第14回までのまとめ試験を行う。
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験などの問題を実践、解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

1) 妊娠・分娩に関する病態生理の理解と知識の修得を目的とする。

- 2) 臨床現場で、適切な対応が行えるための知識を修得する。
- 3) 精神疾患の公衆衛生，臨床，社会資源などについての理解と知識の修得を目的とする。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%），定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト： Advanced Life Support Group 著，新井隆成監訳，病院前救護のための産科救急トレーニング，
中外医学社，2014 年

細野茂春監修，NCPR 新生児蘇生法テキスト第 4 版，メジカルビュー社，2021 年

参考文献： 小関一英編，2023 年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集，晴れ書房，2022 年
適宜指定する教材

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また，参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の 3 分の 1（6 回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

小児科学		講義	教授 柳田 浩義
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13361203

1. 授業のねらい・概要

小児期は、出生直後の新生児期から成人への移行期である思春期までを指す。成人と異なる小児の特徴を学び、救急救命士が臨床の現場で注意を払うべき症状・所見や各種検査、処置・治療、および各疾患の病態を理解する。

2. 授業の進め方

テキストの内容を、適宜、スライドと配布資料を用いて授業する。授業の最後に最近の国家試験問題などを出題し解答を出席カードに記載して提出させる。適宜、論文や新聞・雑誌の記事などから具体的な出来事を取り上げて診療の現場に即した説明も行う。

3. 授業計画

1. 小児の疾病①（先天異常）	9. 小児の疾病⑨（免疫・アレルギー）
2. 小児の疾病②（出生前診断）	10. 小児の疾病⑩（感染症）
3. 小児の疾病③（新生児）	11. 小児の疾病⑪（神経・筋）
4. 小児の疾病④（代謝・内分泌）	12. 小児の疾病⑫（事故）
5. 小児の疾病⑤（呼吸器・循環器）	13. 小児の疾病⑬（虐待）
6. 小児の疾病⑥（消化器）	14. 小児の疾病⑭（救急）
7. 小児の疾病⑦（腎・泌尿器）	15. 小児の疾病⑮（予防医学）
8. 小児の疾病⑧（血液・腫瘍）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、テキストと配布資料を使って復習しておく。さらに、授業の最後に出された問題を復習しておく。この問題は次回の授業の初めに解答を解説する。なお、これらの準備学習には90分以上が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回、過去に実施された国家試験などの問題を実践、解答させる。問題解答の際、また定期試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

救急救命士として必要な小児科学の知識を修得する。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（30%）、定期試験（70%）を総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト： 外間登美子編，小児科学 改訂3版，中外医学社，2005年

参考文献： 細野茂春監修，NCPR 新生児蘇生法テキスト第4版，メジカルビュー社，2021年

小関一英編，2023年版救急救命士国家試験対策出題分野別国試験問題・解説集，晴れ書房，2022年
適宜指定する教材

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

欠席回数が全講義回数の3分の1（6回）以上となった場合には受験資格を失う。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，許可の無い教室の出入り，授業に関係ない言動は慎むこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。医療機関における医師としての実務経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

整形外科 I		講義	客員教授 可知 芳則
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目 柔道整復師コースの専門分野科目	科目ナンバリング	12321201 13361204

1. 授業のねらい・概要

整形外科で治療の対象となる疾患を念頭に置いて、運動器の構造・機能についての理解を深めると同時に教養としての整形外科概論を修得する。

2. 授業の進め方

4月15日、4月22日、5月13日、5月27日、6月10日、6月24日、7月8日、7月22日に授業を行う。

3. 授業計画

1. 運動器の解剖 ①骨・関節 2. 運動器の解剖 ②筋・神経 3. 体表解剖とその見方 4. 運動器の働き 骨・筋 5. 関節運動のメカニズム 6. 機能解剖のまとめ 7. 運動器の正常と異常 ①痛み 8. 運動器の正常と異常 ②動き	9. 運動器の正常と異常 ③形態 10. 整形外科の診察 11. 整形外科の検査 12. 整形外科の治療 13. 外傷総論 ①病態と診断 14. 外傷総論 ②治療法 15. 総合演習
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

既に学んだ解剖学を適宜復習して授業に臨むのが望ましい。各回の復習をしっかりと行うこと。
準備ならびに復習に週3時間程度を見込む。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験施行後に履修獲得不十分な場合、個別レポートにより整形外科 I の範囲について知識の固定化を図る。

6. 授業における学修の到達目標

救急救命士もしくは柔道整復師となるために必要な整形外科の知識を十分に獲得していること。

7. 成績評価の方法・基準

多肢選択式/記述式のテストもしくはレポート（70%）と平常点（30%）を加味した総合評価を行う。
100点満点で60点以上を合格とする。

8. テキスト・参考文献

改訂第11版救急救命士標準テキスト
適宜指定する資料

9. 受講上の留意事項

授業には能動的に取り組み、討論や質問に際しては積極的に発言すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、病院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

整形外科Ⅱ		講義	客員教授 可知 芳則
科目カテゴリ	救急救命士コースの専門分野科目 柔道整復師コースの専門分野科目	科目ナンバリング	12321202 13361205

1. 授業のねらい・概要

整形外科Ⅰで学んだ内容を発展させ、代表的な疾患の病態や診断に至る過程、治療法を理解することで最適な対処方法を導くためのプロセスを学び、より普遍的に応用できる考え方を身につけていく。

2. 授業の進め方

9月30日、10月14日、10月28日、11月11日、11月25日、12月9日、12月23日、1月13日に授業を行う。

3. 授業計画

1. 整形外科の重要疾患	9. 骨盤骨折・脊椎外傷
2. 腰背部痛の診かた	10. スポーツ外傷 1 フィールドでの緊急事態
3. 腰椎椎間板ヘルニア	11. スポーツ外傷 2 代表的整形外科疾患
4. 腰部脊柱管狭窄症	12. 変形性関節症
5. 骨粗鬆症性骨折 1 総論	13. 関節リウマチ・代謝性疾患
6. 骨粗鬆症性骨折 2 各論	14. 整形外科手術の実際
7. 骨粗鬆症の病態と治療	15. 総合演習
8. 小児の骨折	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

既に学んだ解剖学を適宜復習して授業に臨むのが望ましい。各回の復習をしっかりと行うこと。
準備ならびに復習に週3時間程度を見込む。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験施行後に履修獲得不十分な場合、個別レポートにより整形外科Ⅱの範囲について知識の固定化を図る。

6. 授業における学修の到達目標

救急救命士または柔道整復師となるために必要な整形外科の知識を十分に獲得していること。

7. 成績評価の方法・基準

多肢選択式/記述式のテストもしくはレポート（70%）と平常点（30%）を加味した総合評価を行う。
100点満点で60点以上を合格とする。

8. テキスト・参考文献

改訂第11版救急救命士標準テキスト
適宜指定する資料

9. 受講上の留意事項

授業には能動的に取り組み、討論や質問に際しては積極的に発言すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、病院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

外傷学総論		講義	教授 千明 政好	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目		科目ナンバリング	13371301

1. 授業のねらい・概要

外傷学について解剖・生理から臨床現場での処置まで、救急救命士に求められる現場での確認項目を随所に理解することを目的とする。

救命することができる外傷死を減らすための観察・処置判断について解説し、搬送先の選定を具体的に実施できるような外傷学の知識を身につける。

2. 授業の進め方

学生には参加型授業を提案し双方向的な授業を実現できるようにする。前週に実施した授業を確実に理解することとする。また、理解を深めるよう画像・動画も使用した説明を行うとともに、学生自ら習得した知識を活用したアクティブラーニングによる授業展開を行う。

3. 授業計画

回	授業内容	授業形態	担当
1	外傷学総論①外傷疫学外傷の定義と分類、防ぎえた外傷死PTD	講義	千明政好
2	外傷学総論②受傷機転	講義	千明
3	現場活動①現場活動の流れ、ロードアンドゴーと状況評価	講義	千明
4	現場活動②状況評価、初期評価	講義	千明
5	現場活動③全身観察、重点観察	講義	千明
6	現場活動④状況評価～全身観察までの復習と確認試験	講義	千明
7	現場活動⑤緊急度・重症度の判断・緊急処置	講義	千明
8	小試験1回目 および 現場活動⑥医療機関への連絡と搬送手段の選択	講義	千明
9	現場活動⑦全身固定要領	講義	千明
10	現場活動⑧詳細観察・継続観察	講義	千明
11	外傷活動で使用する資器材・ヘルメット除去	講義	千明
12	車内活動要領	講義	千明
13	車外救出要領	講義	千明
14	重症度評価～車外救出要領までの活動のまとめ	講義	千明
15	まとめ および小試験2回目	講義	千明

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 1) 予習（必要時間：約 60 分）
授業計画を参考に、該当授業箇所について予習すること。
- 2) 復習（必要時間：約 60 分）
テキストの授業該当箇所と配布資料などをもとに復習し理解を深めること。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・筆記試験
小試験 2 回、期末試験 1 回、各試験実施直後に解答と解説を行う。
- ・課題
毎回授業の初めに 15 分程度の予習を課す。すべての項目を記入し提出すること。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 救急救命士に係る病院前外傷医療体制を理解できる。
- 2) 外傷死を減らすための救急救命士の観察・処置・判断を理解できる。
- 3) 頭部から足のつま先まで各部の外傷を解剖学的・生理学的な側面から理解できる。

7. 成績評価の方法・基準

1) 成績評価の方法

- a) 筆記試験 (100 %)
 - イ) 小テスト 2 回 (50 %) ・ 期末試験 (50%)
 - ロ) 合計点数の 60%以上を合格とする。
 - ハ) 再試験は実施しない。
 - ニ) 受験資格として 3 分の 2 以上の出席かつ、全ての課題が提出されている事。

8. テキスト・参考文献

救急救命士標準テキスト編集委員会：改訂第11版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）2025.
JPTEC協議会編著：改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック（へるす出版）2022.
適宜指定する教材

9. 受講上の留意点

授業時間中はスマートフォン使用禁止，イヤホン使用禁止，帽子着用禁止とする。従わない場合は退室させ欠席扱いとする。授業中にもかかわらず学生同士の会話等がひどい場合は授業妨害と判断し退出させ欠席扱いとする。テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また，参考文献は適宜紹介する

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は，大学病院救命救急センターや集中治療室等における20年以上の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。救急救命士コースの専門科目である。

外傷学各論		講義	教授 千明 政好
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野	科目ナンバリング	13371302

1. 授業のねらい・概要

外傷学について解剖・生理から臨床現場での処置まで、救急救命士に求められる病態を外傷部位ごとに解説し系統的な理解をはかる。救命することができる外傷死を減らすための観察・処置判断・について解説し、搬送先の選定を具体的に実施できるような外傷学の知識を身につける。外傷学総論と相互に関連する外傷対応の具体的な知識を身につける。

2. 授業の進め方

参加型授業を提案し、双方向的な授業を実現できるようにする。前週に実施した授業を確実に理解することとする。理解を深めるよう画像・動画も使用した説明を行うとともに、学生自ら習得した知識を活用したアクティブラーニングによる授業展開を行う。

3. 授業計画

回	授業内容	授業形態	担当
1	外傷の病態生理 循環動態, ショックなど	講義	千明政好
2	胸部外傷①肺損傷, 血胸, フレイルチェストなど	講義	千明
3	胸部外傷②TAFXXX: 心タンポナーデ, 緊張性気胸など	講義	千明
4	頭部外傷①急性硬膜外血腫, 急性硬膜下出血など	講義	千明
5	頭部外傷②外傷性くも膜下出血, びまん性脳損傷など	講義	千明
6	顔面・頸部外傷・縊首・絞頸	講義	千明
7	脊椎・脊髄外傷 脊髄ショック, 呼吸筋麻痺など	講義	千明
8	知識確認小試験 1 回目および 腹部外傷など	講義	千明
9	腹腔内出血, 消化管損傷, 骨盤外傷 骨盤骨折など	講義	千明
10	四肢外傷・皮膚・軟部組織外傷 骨折・クラッシュ症候群など	講義	千明
11	小児・高齢者・妊婦の特徴と主な外傷	講義	千明
12	熱傷（電撃症）皮膚熱傷・気道熱傷など	講義	千明
13	化学損傷 酸・アルカリ損傷など	講義	千明
14	刺咬傷 哺乳類, 爬虫類, ハチなど	講義	千明
15	1 回～14 回までのまとめと知識確認小試験 2 回目を行う。	講義	千明

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 1) 予習（必要時間：約 60 分）
授業計画を参考に、該当授業箇所について予習すること。
- 2) 復習（必要時間：約 60 分）
テキストの授業該当箇所と配布資料などをもとに復習し理解を深めること。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 1) 筆記試験
小試験 2 回, 期末試験 1 回, 各試験実施直後に解答と解説を行う。
- 2) 課題
毎回授業の初めに 15 分程度の予習を課す。すべての項目を記入し提出すること。

6. 授業における学修の到達目標

予防できる外傷死を減らすための観察・処置判断・について学習し，具体的に実施できるような以下の能力を修得できることを目的とする。

到達目標

- 1) 救急救命士に係る病院前外傷医療体制を理解できる。
- 2) 外傷死を減らすための救急救命士の観察・処置・判断を理解できる。
- 3) 頭部から足のつまさきまで各部の外傷を解剖学的・生理学的な側面から理解できる。
- 4) 熱傷・放射線損傷・化学損傷・電撃症などの観察・処置・判断を理解できる。

7. 成績評価の方法・基準

1) 成績評価の方法

a) 筆記試験 (100 %)

イ) 小テスト2回 (50 %)・期末試験(50 %)

ロ) 合計点数の60%以上を合格とする。

ハ) 再試験は実施しない。

ニ) 受験資格として3分の2以上の出席かつ，全ての課題が提出されている事。

8. テキスト・参考文献

救急救命士標準テキスト編集委員会：改訂第11版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）2025.

JPTEC 協議会編著：改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック（へるす出版）2022.

適宜指定する教材

9. 受講上の留意事項

授業時間中はスマートフォン使用禁止，イヤホン使用禁止，帽子着用禁止とする。従わない場合は退室させ欠席扱いとする。授業中にもかかわらず学生同士の会話等がひどい場合は授業妨害と判断し退出させ欠席扱いとする。

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また，参考文献は適宜紹介する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は，大学病院救命救急センターや集中治療室等における20年以上の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。救急救命士コースの専門科目である。

災害医学		講義	教授 千明 政好
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13381401

1. 授業のねらい・概要

災害医学・災害医療，中毒，放射線障害について理解を深める。また，災害対応の具体例を踏まえた今日的課題について考察を深める。

2. 授業の進め方

参加型授業を提案し，双方向的な授業を実現できるようにする。理解を深めるよう画像・動画も使用した説明を行うとともに，学生自ら習得した知識を活用したアクティブラーニングによる授業展開を行う。

3. 授業計画

回	授業内容	授業形態	担当
1	災害医学総論 災害の定義と災害医療の目的	講義	千明政好
2	多数傷病者への対応 CSCATTT, トリアージなど	講義	千明
3	災害医療に係る法規・体制 災害拠点病院, DMAT, EMIS など	講義	千明
4	災害時に問題となる合併症と治療 感染症, 呼吸器障害, 心筋症など	講義	千明
5	災害時に問題となる特異的な外傷と対応策 クラッシュ症候群など	講義	千明
6	惨事ストレス 災害を契機として現れる精神的・肉体的な影響とその対策	講義	千明
7	災害対応の実例 過去の災害の実例を踏まえた今日的課題	講義	千明
8	第1回～第7回までの内容のまとめおよび 小試験①	講義	千明
9	中毒総論 一般的な中毒の概念と病態理解	講義	千明
10	中毒各論 ①工業品中毒, ガス中毒 (消防活動含む)	講義	千明
11	中毒各論 ②自然毒中毒, 魚介・山菜など自然毒による中毒	講義	千明
12	中毒各論 ③家庭用品中毒, 医薬品中毒, 農薬中毒	講義	千明
13	放射線障害総論 放射線の概要と人体への影響	講義	千明
14	放射線障害各論 放射線障害への対応, 観察と処置	講義	千明
15	第9回～14回までの内容のまとめと小試験②	講義	千明

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1) 予習（必要時間：約 60 分）

授業計画を参考に，該当授業箇所について予習すること。

2) 復習（必要時間：約 60 分）

テキストの授業該当箇所と配布資料などをもとに復習し理解を深めること。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各試験実施直後に解答と解説を行う。口頭や資料提示等により，個別または授業中の講義を通じて行う。

6. 授業における学修の到達目標

救急救命士として社会で活躍するために必要な災害医学分野の知識を習得する。また，当該分野における救急救命士国家試験に関する対策を進める。

- 1) 災害の定義と災害医療の目的がかりかいできる
- 2) 多数傷病者への対応，災害医療に係る法規・体制が理解できる
- 3) 災害時に問題となる合併症と治療および特異的な外傷と対応策が理解できる
- 4) 一般的な中毒の概念と病態および工業品中毒，自然毒中毒，家庭用品中毒，医薬品中毒，農薬中毒が理解できる
- 5) 放射線の概要と人体への影響および放射線障害への対応，観察と処置が理解できる

7. 成績評価の方法・基準

- 1) 小試験 2 回 (50%) 本試験 (50%) により成績評価を行う。
- 2) 合計点数の 60%以上を合格とする。
- 3) 再試験は実施しない。
- 4) 受験資格として 3 分の 2 以上の出席かつ、全ての課題が提出されている事。

8. テキスト・参考文献

救急救命士標準テキスト編集委員会：改訂第 11 版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）2025.
JPTEC 協議会編著：改訂第 2 版補訂版 JPTEC ガイドブック（へるす出版）2022.
適宜指定する教材

9. 受講上の留意事項

授業時間中はスマートフォン使用禁止，イヤホン使用禁止，帽子着用禁止とする。従わない場合は退室させ欠席扱いとする。授業中にもかかわらず学生同士の会話等がひどい場合は授業妨害と判断し退出させ欠席扱いとする。
テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また，参考文献は適宜紹介する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は，大学病院救命救急センターや集中治療室等における 20 年以上の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。救急救命士コースの専門科目である。

救急処置演習 A-I		演習	准教授 古川 慎太郎 講師 田口 弘茂 助教 水上 治彦 非常勤講師 廣田 恵典	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野		科目ナンバリング	13391101

1. 授業のねらい・概要

本授業は、人の命の尊さや大切さを理解するとともに応急処置要領を修得し、災害現場や救護ボランティア現場において即戦力となる人材を養成することをねらいとする。

2. 授業の進め方

応急処置に関する知識と技術を確実に修得させるために、シミュレーション型実技訓練に重点を置いて演習を展開する。また、座学を並行して行い、演習に必要な知識の修得を図る。

3. 授業計画

1. オリエンテーション 教員紹介、授業進行、班編成、実習室の使い方、規律、団体行動の必要性 救急救命士の役割と将来像・応急手当の目的について 2. 環境観察 河川、運動場、道路など実際に赴き、環境観察の要点を理解する。 3. 環境観察～傷病者観察 環境観察・傷病者観察に必要な知識・技術を習得する。 4. 環境観察要領、傷病者観察要領 訓練人形を用いて心肺蘇生法(BLS・成人)の評価をし、技術を習得する。 5. 感染対策、小児・乳児の蘇生について理解する。 6. 人工呼吸ポケットマスク・BVMの取り扱い 人工呼吸を含めた心肺蘇生法(BLS・小児・乳児)の評価を行う。 7. AEDの種類・除細動と蘇生について理解する。 8. 心肺蘇生法一連の活動のスキルチェックを行う。 9. 救急要請～口頭指導(心肺停止・急病人)について理解する。 10. 窒息を疑う場合の取りつき方法(成人・小児・乳児) 気道異物、手動的異物除去：腹部突き上げ法、背部叩打法、胸部突き上げ法を習得する。 11. 気道の解剖、接触～気道確保・初期評価について理解する。 12. 傷病者への取りつき・外見の評価と気道に関する観察について習得する。 13. 循環・意識について理解する。 14. 傷病者への取りつき・循環に関する観察と意識状態に関する観察 皮膚の状態と体温に関する観察を習得する。 15. 第1回～14回までの実技確認試験	16. 第1回～14回までの筆記試験 17. 現場活動者の情報共有について理解する。 18. 外傷傷病者への取りつき・状況評価と安全確保軽症傷病者へのアプローチ：直接圧迫止血三角巾と間接止血ターニケットを習得する。 19. 外傷傷病者に対するアプローチと創傷処置について理解する。 20. 創部の観察と三角巾を用いた被服止血を習得する。 21. 骨折固定処置・災害時に活用できるものについて理解する。 22. 骨折の固定法・シーネを用いた上肢の固定、三角巾を用いた上肢の固定を習得する。 23. 救急要請と口頭指導(ケガの応急手当)について理解する。 24. 外傷傷病者への取りつき・受傷機転の把握骨折の固定法、シーネを用いた下肢の固定について理解する。 25. スポーツ現場・日常生活で起こる外傷に対する初期評価と頸椎保護について理解する。 26. 外傷傷病者への取りつき・初期評価と頸椎保護、ネックカラーによる頸椎固定を習得する。 27. 全身固定について理解する。 28. 外傷傷病者への取りつき・バックボードの特性について、バックボードを利用した全身固定を習得する。 29. 第17回～28回までの実技確認試験 30. 第17回～28回までの筆記試験
--	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート、小テストの見直し、ノート整理）を適宜提示することがある。これには週3時間以上を要する。実技については、次の授業までに訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 小テスト

誤った問題についてはレポートにまとめ、次の授業時に提出しフィードバックを行う。

2) 課題

- a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
- b) 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 救急救命士資格を目指す学生として、倫理感・規律・礼儀を身につける。
- 2) 救急現場の「危険」と「安全」を理解し、危険時には正しい判断ができる。
- 3) 応急処置の実施方法を理解する。

7. 成績評価の方法・基準

成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力、技術の獲得ができたかを以下の方法で評価する。

1) 成績評価項目

- a) 事前の授業の準備と理解の評価
- b) 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
- c) 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
- d) 講義内容の理解度を試験で検討

2) 成績評価の方法

- a) 授業内容の整理・提出（20%）
 - イ) 事前の授業の準備と理解
 - ロ) 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢
- b) 実技試験
 - イ) 受験資格として80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 可否を判定する。不合格のまま単位が出されることはない。
 - ハ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し（但し追試験料は不要）、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ニ) 再試験は必要に応じて1回のみ実施する（但し再試験料は不要）。
- c) 筆記試験（80%）
 - イ) 受験資格として80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 中間試験は必要に応じて実施する。
 - ハ) 中間試験・期末試験結果それぞれの点数の60%以上を合格とする。
 - ニ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ホ) 再試験は、中間試験・期末試験それぞれ必要に応じて1回のみ実施し、60%以上を合格とする。
 - ヘ) 再試験の手続きについては履修要項を参照。

8. テキスト・参考文献

改訂第11版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）

改訂7版 救急蘇生法の指針2025 市民用・解説編（へるす出版）

適宜指定するテキスト

9. 受講上の留意事項

- 1) 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 2) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀、倫理感を養う。
- 3) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。
 - a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服、黒色または紺色の T シャツ、黒色または紺色の靴下、汚れていない内履、及び名札の着用）が履行できない場合。
 - b) 長い爪、髭、過度に明るく染色した頭髮、アクセサリーの着用等、社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で、相応しくないと認められる場合。
 - c) 使用するテキストや資料、個人資器材（腕時計、聴診器、ペンライト、ゴーグル）、その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
 - d) スマートフォンなど音の出る電子機器については、電源を切ることを原則とし、これに従わない場合。
 - e) 居眠りや落ち着きのない言動等、授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
 - f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻、及び 30 分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

蘇生処置演習		演習	准教授 古川 慎太郎 講師 田口 弘茂 助教 水上 治彦 非常勤講師 廣田 恵典	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野		科目ナンバリング	13391102

1. 授業のねらい・概要

本授業は、人の命の尊さや大切さを理解するとともに応急処置要領を修得し、災害現場や救護ボランティア現場において即戦力となる人材を養成することをねらいとする。

2. 授業の進め方

応急処置に関する知識と技術を確実に修得させるために、シミュレーション型実技訓練に重点を置いて演習を展開する。また、座学を並行して行い、演習に必要な知識の修得を図る。

3. 授業計画

1. ガイダンス・意識のある傷病者へのアプローチとバイタル測定について理解する。 2. 初期評価, ABCD アプローチを習得する。 3. 聴診器の使用法について理解する。 4. バイタル測定: SpO ₂ , 体温, 瞳孔(ペンライトの取り扱い)を習得する。 5. 心電図と心音, 呼吸音について理解する。 6. 血圧の測定, 自動, 手動を取得する。 7. 体位管理の重要性について理解する。 8. 心電図の測定方法, 呼吸音・心音の聴診を習得する。 9. 搬送方法(ボディメカニクス)について理解する。 10. 問診, 体位管理について習得する。 11. 傷病者への接遇について理解する。 12. 徒手搬送: 1人での搬送法, 2人での搬送法を習得する。 13. 様々なボランティアと救急救命士養成課程学生に求められる知識と技術について理解する。 14. 意識がある傷病者へのアプローチを習得する。 15. 第1回～14回までの実技確認試験	16. 第1回～14回までの筆記試験 17. 経鼻エアウェイ・経口エアウェイを使用する際に必要な知識・気道の解剖について理解する。 18. 酸素ボンベ, 酸素投与の取り扱いについて理解を深める。 19. 消防における救急業務について理解する。 20. 器具を用いた気道確保(経鼻エアウェイ・経口エアウェイ)を習得する。 21. 異物除去, 吸引器について理解する。 22. スキルチェック(経鼻エアウェイ・経口エアウェイ)を行う。 23. 喉頭鏡・マギール鉗子を用いた異物除去について理解する。 24. 口腔内確認要領(指拭), 電動式吸引器を用いた異物除去を習得する。 25. チームビルディングの重要性について理解する。 26. 器具を用いた異物除去要領 喉頭鏡とマギール鉗子を用いた異物除去を習得する。 27. 救急隊活動におけるコミュニケーションについて理解する。 28. 救急隊活動: 異物窒息に対する活動を習得する。 29. 第17回～28回までの実技確認試験 30. 第17回～28回までの筆記試験
--	--

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容(課題レポート, 小テストの見直し, ノート整理)を適宜提示することがある。これには週3時間以上を要する。実技については, 次回の授業までに訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

1) 小テスト

誤った問題についてはレポートにまとめ, 次回の授業時に提出しフィードバックを行う。

2) 課題

a) 教員は学生が提出した課題を評価し, フィードバックを行う。

- b) 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 生体の死に至る機構を理解し、説明できる。
- 2) 蘇生に必要な解剖学的な知識を取得し、説明できる。
- 3) 死に至る病態について理解し、説明できる。
- 4) 蘇生に必要な病態生理について理解し、説明できる。
- 5) BLS, ALS について説明できる。
- 6) 心肺蘇生の意義について説明できる。

7. 成績評価の方法・基準

成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力、技術の獲得ができたかを以下の方法で評価する。

1) 成績評価項目

- a) 事前の授業の準備と理解の評価
- b) 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
- c) 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
- d) 講義内容の理解度を試験で検討

2) 成績評価の方法

- a) 授業内容の整理・提出 (20%)
 - イ) 事前の授業の準備と理解
 - ロ) 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢
- b) 実技試験
 - イ) 受験資格として 80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している必要がある。
 - ロ) 可否を判定する。不合格のまま単位が出されることはない。
 - ハ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し (但し追試験料は不要)、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ニ) 再試験は必要に応じて 1 回のみ実施する (但し再試験料は不要)。
- c) 筆記試験 (80%)
 - イ) 受験資格として 80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している必要がある。
 - ロ) 中間試験は必要に応じて実施する。
 - ハ) 中間試験・期末試験結果それぞれの点数の 60%以上を合格とする。
 - ニ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ホ) 再試験は、中間試験・期末試験それぞれ必要に応じて 1 回のみ実施し、60%以上を合格とする。
 - ヘ) 再試験の手続きについては履修要項を参照。

8. テキスト・参考文献

改訂第 11 版救急救命士標準テキスト (へるす出版)

改訂 7 版 救急蘇生法の指針 2025 市民用・解説編 (へるす出版)

適宜指定するテキスト

9. 受講上の留意事項

- 1) 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 2) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀、倫理感を養う。
- 3) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。
 - a) 実習に相応しい身だしなみ (アイロンがけした制服、黒色または紺色の T シャツ、黒色または紺色の靴下、汚れていない内履、及び名札の着用) が履行できない場合。
 - b) 長い爪、髭、過度に明るく染色した頭髮等、社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で、相応しく

ないと認められる場合。

- c) 使用するテキストや資料，個人資器材（腕時計，聴診器，ペンライト，ゴーグル），その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
- d) スマートフォンなど音の出る電子機器については，電源を切ることを原則とし，これに従わない場合。
- e) 居眠りや落ち着きのない言動等，授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
- f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻，及び 30 分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は，公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

救助学演習		演習	准教授 古川 慎太郎 准教授 甲田 智之 講師 田口 弘茂 助教 水上 治彦	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391103	

1. 授業のねらい・概要

救助活動に必要な基礎知識・技術、協調性、判断力、行動力等を修得することをねらいとする。

2. 授業の進め方

屋外または屋内での実動訓練を中心に授業を展開する。授業への取り組み姿勢に応じたグループ分けを行い、安全かつ効率的な授業展開を行う。なお、安全管理や部隊活動に係る留意事項について繰り返し指摘される学生については、危険を伴う訓練には参加させない（見学のみとする）。

3. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の目的・進め方）	16. 降下①（座席懸垂：基本反復①）
2. 救助資器材の特徴①（安全帯）	17. 降下②（座席懸垂：基本反復②）
3. 救助資器材の特徴②（担架）	18. 降下③（座席懸垂：基本反復③）
4. 救助資器材の特徴③（はしご）	19. 降下④（座席懸垂：基本反復④）
5. 救助資器材の特徴④（情報通信機器）	20. 降下⑤（座席懸垂：基本反復⑤）
6. 救助活動の力学①（ロープ・スリング）	21. 要救助者へのアプローチ・搬送①（留意事項）
7. 救助活動の力学②（摩擦）	22. 要救助者へのアプローチ・搬送②（高低差①）
8. 救助活動の力学③（倍力：基本）	23. 要救助者へのアプローチ・搬送③（高低差②）
9. 救助活動の力学④（倍力：応用）	24. 要救助者へのアプローチ・搬送④（高低差③）
10. 救助活動の力学⑤（てこ）	25. 要救助者へのアプローチ・搬送⑤（閉鎖空間①）
11. ロープの設定①（支持点・支点の作成）	26. 要救助者へのアプローチ・搬送⑥（閉鎖空間②）
12. ロープの設定②（懸垂ロープの設定）	27. 要救助者へのアプローチ・搬送⑦（閉鎖空間③）
13. 確保①（確保の目的と基本要素）	28. 想定訓練①（高低差）
14. 確保②（確保の実践①）	29. 想定訓練②（閉鎖空間）
15. 確保③（確保の実践②）	30. 想定訓練③（総合）

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

適宜提示する事項に関する事前学習、授業内容の振り返り、資料整理、自主練習等を行う必要があり、各授業につき90分程度を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

口頭や資料提示等により、個別または授業中の講義を通じて行う。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 救助活動における安全管理の重要性について理解を深め、現場活動に必要な基本知識・技術を習得する。
- 2) 部隊活動を行う上で不可欠な規律を身に付ける。

7. 成績評価の方法・基準

授業後に提出する実習ノートおよび授業における活動状況により評価する。（100%）

なお、活動状況は、出席状況・授業態度・積極性・協調性・判断力・行動力等を踏まえて総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

適宜指定する資料

9. 受講上の留意事項

- 1) 本科目は、本コースの全学生が履修しなければならない。
- 2) 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 3) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀、倫理感を養う。
- 4) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。
 - a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服、黒色または紺色の T シャツ、黒色または紺色の靴下、汚れていない内履、及び名札の着用）が履行できない場合。
 - b) 長い爪、髭、過度に明るく染色した頭髮、アクセサリーの着用等、社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で、相応しくないと認められる場合。
 - c) 使用するテキストや資料、個人資器材（腕時計、聴診器、ペンライト、ゴーグル）、その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
 - d) スマートフォンなど音の出る電子機器については、電源を切ることを原則とし、これに従わない場合。
 - e) 居眠りや落ち着きのない言動等、授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
 - f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻、及び 30 分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

救急処置演習 A-Ⅱ		演習	准教授 甲田智之 講師 田口弘茂 助教 水上治彦
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391201

1. 授業のねらい・概要

本授業は、救急救命士の資格を取得するために必要な観察結果に基づく判断、及び救急救命処置の理解を目的とした演習を行う。
また、救急救命処置に必要な資器材の取扱方法の習熟についても実習を行う。

2. 授業の進め方

救急救命処置に関する知識と技術を確実に修得させるために、シミュレーション型実技訓練に重点を置いて演習を展開する。
また、座学を並行して行い、演習に必要な知識の修得を図る。

3. 授業計画

1 オリエンテーション（教員紹介） （1）消防行政に関する法令等を理解する。	16 第9回から第15回までの実技確認試験
2 観察Ⅰ－1 （1）観察の目的と意義・バイタルサイン 全観察すべき視点を理解する。	17 第9回から第15回までの筆記試験
3 観察Ⅰ－2 （1）バイタルサイン観察の方法 各項目の基本的測定手技を取得する。	18 体位管理Ⅰ （1）体位管理の目的・適応と手順・評価・注意点 この処置手技を理解し取得する。
4 資器材による観察Ⅰ－1 （1）資器材の取扱い説明及びその反復訓練 パルスオキシメータ・カプノメーター	19 体温管理Ⅰ （1）保温・冷却の目的・適応と手順・評価・注意点 この処置手技を理解し取得する。
5 資器材による観察Ⅰ－2 （1）資器材の取扱い説明及びその反復訓練 聴診器・血圧計	20 救急搬送Ⅰ－1 （1）救急搬送総論 救急搬送と現場で業務を行う者の役割を理解し取得する。
6 資器材による観察Ⅰ－3 （1）資器材の取扱い説明及びその反復訓練 心電図モニター・体温計・血糖測定器	21 救急搬送Ⅰ－2 （1）救急搬送総論 救急搬送の概要及び傷病者の安全確保を理解し取得する。
7 第1回から第6回までの実技確認試験	22 救急搬送Ⅰ－3 （1）救急搬送総論 ボディメカニクスと傷病者の持ち上げを理解し取得する。
8 第1回から第6回までの筆記試験	23 救急搬送Ⅱ－1 （1）救急搬送各論 傷病者の搬送の各手技の反復訓練
9 救急救命士が行う処置Ⅰ （1）処置の目的と意義 適応・禁忌・各資器材の種類と構造・手技 取扱い時の注意点及び合併症を理解する。	24 救急搬送Ⅱ－2 （1）救急搬送各論 傷病者の搬送の各手技の反復訓練 メインストレッチャーでの曳行
10 救急救命士が行う処置Ⅱ （1）各手技の説明及びその反復訓練 気道確保	25 救急搬送Ⅱ－3 （1）救急搬送各論 傷病者の搬送の各手技の反復訓練 救急車への搬入・搬出・医療機関への搬入
11 救急救命士が行う処置Ⅲ （1）各手技の説明及びその反復訓練 気道異物除去・口腔内の吸引	26 救急搬送Ⅲ－1 （1）特殊な対応 ヘリコプター等との連携の説明等
12 救急救命士が行う処置Ⅲ （1）各資器材・その手技の説明及びその反復訓練 気管吸引・酸素投与	27 救急搬送Ⅲ－2 （1）特殊な対応 傷病者の救出法の説明及びその手技の取得
13 救急救命士が行う処置Ⅳ （1）各資器材・その手技の説明及びその反復訓練 人工呼吸・胸骨圧迫	28 救急搬送Ⅲ－3 （1）特殊な対応 傷病者の事故車両からの救出・浴槽からの救出・トイレからの救出
14 救急救命士が行う処置Ⅴ （1）各資器材・その手技の説明及びその反復訓練 自動心臓マッサージ器	29 第18回から第28回までの実技確認試験
15 救急救命士が行う処置Ⅵ （1）各資器材・その手技の説明及びその反復訓練 除細動電気ショック	30 第18回から第28回までの筆記試験

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート、小テストの見直し、ノート整理）を適宜提示する。これには週 3 時間以上を要する。手技については、次の授業までに訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 小テスト

誤った問題についてはレポートにまとめ、次の授業時に提出しフィードバックを行う。

2) 課題

- a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
- b) 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 救急救命処置に関する知識と技術を確実に修得する。
- 2) 傷病者観察の結果に基づいた適切な処置が行える技術を修得する。
- 3) 救急資器材の準備及び操作の際に、清潔操作を確実に実施できる。

7. 成績評価の方法・基準

成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力、技術の獲得ができたかを以下の方法で評価する。

1) 成績評価項目

- a) 事前の授業の準備と理解の評価
- b) 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
- c) 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
- d) 講義内容の理解度を試験で検討

2) 成績評価の方法

- a) 授業内容の整理・提出（20%）
 - イ) 事前の授業の準備と理解
 - ロ) 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢
- b) 実技試験
 - イ) 受験資格として 80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 可否を判定する。不合格のまま単位が出されることはない。
 - ハ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し（但し追試験料は不要）、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
- ニ) 再試験は必要に応じて 1 回のみ実施する（但し再試験料は不要）。
- c) 筆記試験（80%）
 - イ) 受験資格として 80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 中間試験は必要に応じて実施する。
 - ハ) 中間試験・期末試験結果それぞれの点数の 60%以上を合格とする。
 - ニ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ホ) 再試験は、中間試験・期末試験それぞれ必要に応じて 1 回のみ実施し、60%以上を合格とする。
 - ヘ) 再試験の手続きについては履修要項を参照。

8. テキスト・参考文献

改訂第 11 版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）
改訂 6 版 救急蘇生法の指針 2020 市民用・解説編（へるす出版）
改訂第 2 版補訂版 JPTEC ガイドブック（へるす出版）
適宜指定するテキスト

9. 受講上の留意事項

- 1) 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 2) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀、倫理感を養う。
- 3) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。
 - a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服、黒色または紺色の T シャツ、黒色または紺色の靴下、汚れていない内履、及び名札の着用）が履行できない場合。
 - b) 長い爪、髭、過度に明るく染色した頭髮、アクセサリーの着用等、社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で、相応しくないと認められる場合。
 - c) 使用するテキストや資料、個人資器材（腕時計、聴診器、ペンライト、ゴーグル）、その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
 - d) スマートフォンなど音の出る電子機器については、電源を切ることを原則とし、これに従わない場合。
 - e) 居眠りや落ち着きのない言動等、授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。

f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻，及び 30 分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は，公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

外傷救急処置演習		演習	准教授 甲田智之 講師 田口弘茂 助教 水上治彦
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野	科目ナンバリング	13391202

1. 授業のねらい・概要

本授業は、救急救命士の資格を取得するために必要な観察結果に基づく判断及び救急救命処置の理解を目的とした演習を行う。また、外力により身体が器質的、機能的な障害により損傷した部位の観察・判断・処置要領の修得を目的とする。

2. 授業の進め方

救急救命処置に関する知識と技術を確実に修得させるために、シミュレーション型実技訓練に重点を置いて演習を展開する。また、座学を並行して行い、演習に必要な知識の修得を図る。

3. 授業計画

1 外傷救急医学Ⅰ (1) 疫学と外傷システム 外傷の定義を理解する。 2 外傷救急医学Ⅱ (1) 受傷機転 受傷機転とエネルギーを理解する。 3 外傷救急医学Ⅲ (1) 外傷の分類 外傷の各分類を理解する。 4 外傷救急医学Ⅳ (1) 主な受傷形態 各受傷形態を理解する。 5 外傷救急医学Ⅴ (1) 外傷の病態生理 環境動態・ストレスホルモン・代償反応の破綻急性期後の障害等を理解する。 6 外傷の現場活動Ⅰ (1) 状況評価 出動要請時の情報収集・感染防御・携帯資器の確認・安全確認・傷病者数の確認と応援要請・受傷機転の把握等を理解する。 7 外傷の現場活動Ⅱ (1) 傷病者の評価 初期評価・全身観察・重点観察・緊急度・重症度とロード&ゴーの判断医療機関選定と搬送開始・傷病者の評価・搬送中の活動等を理解する。 8 頭部外傷 (1) 疫学・受傷機転・病態・主な外傷・現場活動 上記項目を理解する。 9 顔面・頸部外傷 (1) 疫学・受傷機転・病態・主な外傷・現場活動 上記項目を理解する。 10 脊椎・脊髄外傷 (1) 疫学・受傷機転・病態・主な外傷・現場活動 上記項目を理解する。 11 胸部外傷Ⅰ (1) 疫学・心臓傷・心タンポナーゼ・心臓振盪・大血管損傷の受傷機転・病態・現場活動を理解する。 12 胸部外傷Ⅱ (1) 肺損傷・気胸・緊張性気胸の受傷機転・病態・現場活動を理解する。	16 腹部外傷Ⅱ (1) 血管損傷・腹壁損傷の受傷機転・病態・現場活動を理解する。 17 骨盤骨折 (1) 安定型骨盤骨折・不安定型骨盤骨折の受傷機転・病態現場活動を理解する。 18 四肢外傷Ⅰ (1) 疫学・骨折・脱臼・筋肉損傷の受傷機転・病態・現場活動を理解する。 19 四肢外傷Ⅱ (1) 腱損傷・靱帯損傷・四肢指趾切断の受傷機転・病態・現場活動を理解する。 20 四肢外傷Ⅲ (1) コンパートメント症候群・クラッシュ（圧挫）症候群・広範囲剥皮創の受傷機転・病態・現場活動を理解する。 21 小児・高齢者・妊婦の外傷Ⅰ (1) 小児の外傷の受傷機転・病態・現場活動を理解する。 22 小児・高齢者・妊婦の外傷Ⅱ (1) 高齢者の外傷の受傷機転・病態・現場活動を理解する。 23 小児・高齢者・妊婦の外傷Ⅲ (1) 妊婦の外傷の受傷機転・病態・現場活動を理解する。 24 第1回から第23回までのまとめ（筆記試験） 25 外傷現場活動Ⅰ (1) 状況評価・初期評価・必要な処置について、現場想定訓練を受講し、理解を深め、必要な救急救命処置を習得する。 26 外傷現場活動Ⅱ (1) 状況評価・初期評価・必要な処置について、現場想定訓練を受講し、理解を深め、必要な救急救命処置を習得する。 27 外傷現場活動Ⅲ (1) ネックカラー・バックボード・スクープストレッチャーによる全身固定の手技を習得する。 28 外傷現場活動Ⅳ (1) 状況評価から全身固定（情報収集含む）までの一連の手技現場想定訓練を受講し、手技を習得する。 29 外傷現場活動Ⅴ (1) KED（ケンドリック式救助器具）の固定手技を習得する。 30 第25回から第29回までのまとめ（筆記試験）
--	---

1 3 胸部外傷Ⅲ (1) 血胸・気管気管支損傷・肋骨骨折の受傷機転・病態の現場活動を理解する。 1 4 胸部外傷Ⅳ (1) フレイルチェスト・横隔膜損傷・外傷性窒息の受傷機転病態・現場活動を理解する。 1 5 腹部外傷Ⅰ (1) 疫学・実質臓器損傷・管腔臓器損傷の受傷機転・病態・現場活動を理解する。	
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート、小テストの見直し、ノート整理）を適宜提示する。これには週 3 時間以上を要する。実技については、次回の授業までに訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 1) 小テスト
誤った問題についてはレポートにまとめ、次回の授業時に提出しフィードバックを行う。
- 2) 課題
 - a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
 - b) 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) JPTEC における病院前外傷処置要領を修得し、説明ができる。
- 2) PSLs・PEMEC における病院前活動要領を習得し、説明ができる。

7. 成績評価の方法・基準

成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力、技術の獲得ができたかを以下の方法で評価する。

- 1) 成績評価項目
 - a) 事前の授業の準備と理解の評価
 - b) 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
 - c) 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
 - d) 講義内容の理解度を試験で検討
- 2) 成績評価の方法
 - a) 授業内容の整理・提出（20%）
 - イ) 事前の授業の準備と理解
 - ロ) 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢
 - b) 実技試験
 - イ) 受験資格として 80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 合否を判定する。不合格のまま単位が出されることはない。
 - ハ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し（但し追試験料は不要）、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ニ) 再試験は必要に応じて 1 回のみ実施する（但し再試験料は不要）。
 - c) 筆記試験（80%）
 - イ) 受験資格として 80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 中間試験は必要に応じて実施する。
 - ハ) 中間試験・期末試験結果それぞれの点数の 60%以上を合格とする。
 - ニ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ホ) 再試験は、中間試験・期末試験それぞれ必要に応じて 1 回のみ実施し、60%以上を合格とする。
 - ヘ) 再試験の手続きについては履修要項を参照。

8. テキスト・参考文献

改訂第 11 版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
改訂 6 版 救急蘇生法の指針 2020 市民用・解説編(へるす出版)
改訂第 2 版補訂版 JPTEC ガイドブック(へるす出版)
PSLS ガイドブック 2015(へるす出版)
PEMEC ガイドブック 2023(へるす出版)

9. 受講上の留意事項

- 1) 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 2) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀、倫理感を養

う。

3) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。

- a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服、黒色または紺色の T シャツ、黒色または紺色の靴下、汚れていない内履、及び名札の着用）が履行できない場合。
- b) 長い爪、髭、過度に明るく染色した頭髪、アクセサリーの着用等、社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で、相応しくないと認められる場合。
- c) 使用するテキストや資料、個人資器材（腕時計、聴診器、ペンライト、ゴーグル）、その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
- d) スマートフォンなど音の出る電子機器については、電源を切ることを原則とし、これに従わない場合。
- e) 居眠りや落ち着きのない言動等、授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
- f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻、及び 30 分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

救急処置演習 A-Ⅲ		講義	教授 千明 政好 准教授 甲田 智之
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391301

1. 授業のねらい・概要

救急救命士として傷病者の観察・処置などの基本を理解し、刻一刻と変化する病態に対し、確実な救命が実践できることを目的とする。また病院前における医療資器材を用いた救急救命処置等の理論及び、具体的な救命処置技術について演習を通して理解する。A-I, A-II の内容を前提により高度な知識と手技を学んでいく。

2. 授業の進め方

救急救命処置に関する知識と技術を確実に修得させるために、シミュレーション型実技訓練に重点を置いて演習を展開する。また、座学を並行して行い、演習に必要な知識の修得を図る。

3. 授業計画

回	授業内容	授業形態	担当
1	オリエンテーション 心肺停止活動要領、心原性心停止傷病者に対する隊活動について理解を深める。	講義演習	千明政好 甲田智之
2	救急隊活動：酸素投与について理解を深める。	講義演習	千明 甲田
3	救急隊活動：救急隊活動中における声門上気道デバイス（LM）を用いた気道確保を習得する。	講義演習	千明 甲田
4	救急隊活動：救急隊活動中における声門上気道デバイス（LT）を用いた気道確保を習得する。	講義演習	千明 甲田
5	気道の解剖と喉頭展開：気管挿管に必要な知識の理解を深め、喉頭展開を習得する。	講義演習	千明 甲田
6	器具を用いた異物除去と喉頭展開：喉頭鏡・マギール用いた異物除去・喉頭展開について習得する。	講義演習	千明 甲田
7	救急隊活動：気管挿管プロトコルについての理解を深める。	講義演習	千明 甲田
8	気管挿管：気管挿管の方法と手順について習得する。	講義演習	千明 甲田
9	救急隊活動と隊活動：トラブルシューティングについて理解する。	講義演習	千明 甲田
10	気管挿管：カプノメーターについての理解を深める。	講義演習	千明 甲田
11	気管挿管：手技の訓練	講義演習	千明 甲田
12	気管挿管：手技の訓練	講義演習	千明 甲田
13	スキルチェック：気管挿管に関するスキルチェックを行う。	講義演習	千明 甲田
14	スキルチェック：気管挿管に関するスキルチェックを行う。	講義演習	千明 甲田
15	中間試験	講義演習	千明
16	スキルチェック再試験	講義演習	千明 甲田
17	気管挿管：エアウェイスコープについて理解する。	講義演習	千明 甲田
18	気管挿管：エアウェイスコープの手順を修得する。	講義演習	千明 甲田
19	心肺停止傷病者に対する静脈路確保：静脈路確保に必要な知識について理解を深める。	講義演習	千明 甲田
20	静脈路確保：静脈路確保の手順と方法	講義演習	千明 甲田
21	静脈路確保：静脈路確保プロトコルを理解し、習得する。	講義演習	千明 甲田
22	静脈路確保：静脈路確保プロトコルを理解し、習得する。	講義演習	千明 甲田
23	静脈路確保：静脈路確保の一連の流れを習得する。	講義演習	千明 甲田
24	静脈路確保：静脈路確保の一連の流れを習得する。	講義演習	千明 甲田
25	静脈路確保：手技の訓練	講義演習	千明 甲田
26	静脈路確保：手技の訓練	講義演習	千明 甲田
27	心肺機能停止の院内蘇生シミュレーション訓練(ICLS)	講義演習	千明 甲田
28	心肺機能停止の院内蘇生シミュレーション訓練(ICLS)	講義演習	千明 甲田
29	スキルチェック：静脈路確保に関するスキルチェックを行う。	講義演習	千明 甲田
30	スキルチェック：静脈路確保に関するスキルチェックを行う。	講義演習	千明 甲田
	期末試験	講義	千明

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業計画に応じた予習・復習を必ず行い参加すること。予習と復習には毎週3時間以上を要する。手技については、次の授業までに訓練し修得すること。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 1) 試験
実技試験中心であるが筆記試験も行う。試験直後に回答と解説を行う。
- 2) 課題
 - a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
 - b) 課題で重要な部分は、授業中にその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 救急救命士として必要な知識と技術を確実に修得する。
- 2) 救急救命士として正確な観察、病態評価、資器材を用いた特定行為を修得する。
- 3) 救急資器材の準備及び扱う際に、清潔操作を確実に実施できる。
- 4) 特定行為の実施に必要な連絡、報告が実施できる

7. 成績評価の方法・基準

成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力、技術の獲得ができたかを以下の方法で評価する。

- 1) 成績評価項目
 - a) 事前の授業の準備と理解の評価
 - b) 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
 - c) 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
 - d) 講義内容の理解度を試験で検討
- 2) 成績評価の方法
 - a) 授業内容の整理・提出（20%）
 - イ 事前の授業の準備と理解
 - ロ 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢
 - b) 実技試験
 - イ 受験資格として 80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ 合否を判定する。不合格のまま単位が出されることはない。
 - ハ 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し（但し追試験料は不要）、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ニ 再試験は必要に応じて1回のみ実施する（但し再試験料は不要）。
 - c) 筆記試験（80%）
 - イ 受験資格として80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ 中間試験は必要に応じて実施する。
 - ハ 中間試験・期末試験結果それぞれの点数の60%以上を合格とする。
 - ニ 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ホ 再試験は、中間試験・期末試験それぞれ必要に応じて1回のみ実施し、60%以上を合格とする。
 - ヘ 再試験の手続きについては履修要項を参照。

8. テキスト・参考文献

救急救命士標準テキスト編集委員会：改訂第11版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）2025.
JPTEC 協議会編著：改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック（へるす出版）2022.
改訂6版 救急蘇生法の指針2020 市民用・解説編（へるす出版）
適宜指定するテキスト

9. 受講上の留意事項

- 1) 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 2) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀、倫理感を養えるように授業に参加すること。
- 3) 本科目は原則として、救急処置演習A-Ⅲ、救急車内活動演習において、C評価以上を得た者を対象とし、これに該当しない者は受講を認めない。
- 4) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。
 - a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服、黒色または紺色のTシャツ、黒色または紺色の靴下、汚れていない内履、及び名札の着用）が履行できない場合
 - b) 長い爪、髭、過度に明るく染色した頭髮、アクセサリーの着用等、社会通念上医療従事者として救急活動

に従事する上で、相応しくないと認められる場合

- c) 使用するテキストや資料，個人資器材（腕時計，聴診器，ペンライト，ゴーグル），その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合
- d) スマートフォンなど音の出る電子機器については，電源を切ることを原則とし，これに従わない場合
- e) 居眠りや落ち着きのない言動等，授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合
- f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻，及び 30 分以上の遅刻

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は，大学病院救命救急センターや集中治療室等における20年以上の実務経験を活かして指導する

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。救急救命士コースの専門科目である。

救急車内活動演習		講義	教授 千明 政好 准教授 甲田 智之	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391302	

1. 授業のねらい・概要

一連の救急救命処置活動（覚知～要請内容・資器材確認～急行～救急処置～状況聴取～傷病者観察・処置～ストレッチャー収容・検査・医師への引き継ぎまで）について、医療者としての判断、メディカルスタッフへの指示、チーム医療としての処置継続、傷病者等との接遇及び各種救急事故における救急処置活動要領の基本を習得する。

また、救急救命処置に必要な救急資器材の取り扱い要領を習得する。

2. 授業の進め方

救急処置に関する知識と技術を確実に修得させるために、シミュレーション型実技訓練に重点を置いて演習を展開する。また、座学を並行して行い、演習に必要な知識の修得を図る。

3. 授業計画

回	授業内容	授業形態	担当
1	オリエンテーション 薬剤投与について理解を深める。	講義演習	千明政好 甲田智之
2	薬剤投与：薬剤投与を習得する。	講義演習	千明 甲田
3	薬剤投与：薬剤投与プロトコルについて理解を深める。	講義演習	千明 甲田
4	薬剤投与：心肺停止傷病者に対する処置について習得する。	講義演習	千明 甲田
5	薬剤投与：手技の訓練	講義演習	甲田 千明
6	薬剤投与：手技の訓練	講義演習	甲田 千明
7	スキルチェック：薬剤投与に関するスキルチェックを行う。	講義演習	甲田 千明
8	スキルチェック：薬剤投与に関するスキルチェックを行う。	講義演習	甲田 千明
9	薬剤投与：薬剤投与を含めた一連の隊活動について確認する。	講義演習	甲田 千明
10	薬剤投与：薬剤投与を含めた一連の隊活動について確認する。	講義演習	甲田 千明
11	内因性活動：内因性活動について理解を深める	講義演習	千明 甲田
12	内因性活動：内因性活動について理解を深める	講義演習	千明 甲田
13	内因性活動：内因性活動の一連の流れを修得する。	講義演習	甲田 千明
14	内因性活動：内因性活動の一連の流れを修得する。	講義演習	甲田 千明
15	中間試験	講義演習	千明
16	救急救命士の IC について：意識のある傷病者・家族に対するインフォームドコンセントについて理解を深める。	講義演習	千明 甲田
17	意識障害を呈する傷病者への対応：意識障害の鑑別について理解を深める。	講義演習	千明 甲田
18	低血糖傷病者への対応：糖尿病・血糖値異常について理解を深める。	講義演習	千明 甲田
19	血糖測定：血糖測定のプロトコルについて理解を深める。	講義演習	千明 甲田
20	血糖測定：血糖測定の手順と方法について理解を深める。	講義演習	甲田 千明
21	血糖測定：血糖測定の手順と方法について理解を深める。	講義演習	甲田 千明
22	血糖測定：血糖測定の手順と方法について理解を深める。	講義演習	甲田 千明
23	ブドウ糖投与：ブドウ糖投与方法と手順について習得する。	講義演習	千明 甲田
24	ブドウ糖投与：ブドウ糖投与方法と手順について習得する。	講義演習	千明 甲田
25	ブドウ糖投与：手技の訓練	講義演習	甲田 千明
26	ブドウ糖投与：手技の訓練	講義演習	甲田 千明
27	スキルチェック：ブドウ糖投与に関するスキルチェック	講義演習	千明 甲田
28	スキルチェック：ブドウ糖投与に関するスキルチェック	講義演習	千明 甲田
29	医療機関選定：院前救護活動における医療機関選定について知識を深める。	講義演習	千明 甲田
30	車内収容と車内活動：送資器材を用いて、車内収容を行い、車内活動の一連の流れについて理解し、習得する。	講義演習	甲田 千明
	期末試験	講義	千明

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業計画に応じた予習・復習を必ず行い参加すること。予習と復習には毎週3時間以上を要する。手技については、次の授業までに訓練し修得すること。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 1) 試験
実技試験中心であるが筆記試験も行う。試験直後に回答と解説を行う。
- 2) 課題
 - a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
 - b) 課題で重要な部分は、授業中にその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 救急救命士として必要な知識と技術を確実に修得する。
- 2) 救急救命士として正確な観察、病態評価、資器材を用いた特定行為を修得する。
- 3) 救急資器材の準備及び扱う際に、清潔操作を確実に実施できる。
- 4) 特定行為の実施に必要な連絡、報告が実施できる

7. 成績評価の方法・基準

成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力、技術の獲得ができたかを以下の方法で評価する。

- 1) 成績評価項目
 - a) 事前の授業の準備と理解の評価
 - b) 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
 - c) 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
 - d) 講義内容の理解度を試験で検討
- 2) 成績評価の方法
 - a) 授業内容の整理・提出（20%）
 - イ 事前の授業の準備と理解
 - ロ 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢
 - b) 実技試験
 - イ 受験資格として 80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ 可否を判定する。不合格のまま単位が出されることはない。
 - ハ 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し（但し追試験料は不要）、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ニ 再試験は必要に応じて1回のみ実施する（但し再試験料は不要）。
 - c) 筆記試験（80%）
 - イ 受験資格として80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ 中間試験は実施する。
 - ハ 中間試験・期末試験結果それぞれの点数の60%以上を合格とする。
 - ニ 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ホ 再試験は、中間試験・期末試験それぞれ必要に応じて1回のみ実施し、60%以上を合格とする。
 - ヘ 再試験の手続きについては履修要項を参照。

8. テキスト・参考文献

救急救命士標準テキスト編集委員会：改訂第11版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）2025。
JPTEC 協議会編著：改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック（へるす出版）2022。
改訂6版 救急蘇生法の指針2020 市民用・解説編（へるす出版）
適宜指定するテキスト

9. 受講上の留意事項

- 1) 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 2) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀、倫理感を養えるように授業に参加すること。
- 3) 本科目は原則として、救急処置演習 A-Ⅲ、救急車内活動演習において、C 評価以上を得た者を対象とし、これに該当しない者は受講を認めない。
- 4) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。
 - a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服、黒色または紺色の T シャツ、黒色または紺色の靴下、汚れていない内履、及び名札の着用）が履行できない場合
 - b) 長い爪、髭、過度に明るく染色した頭髮、アクセサリーの着用等、社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で、相応しくないと認められる場合
 - c) 使用するテキストや資料、個人資器材（腕時計、聴診器、ペンライト、ゴーグル）、その他授業に持参する

よう指示した物品を忘れた場合

- d) スマートフォンなど音の出る電子機器については、電源を切ることを原則とし、これに従わない場合
- e) 居眠りや落ち着きのない言動等、授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合
- f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻、及び 30 分以上の遅刻

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、大学病院救命救急センターや集中治療室等における20年以上の実務経験を活かして指導する

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。救急救命士コースの専門科目である。

救急処置演習 A-IV		演習	准教授 甲田智之 講 師 田口弘茂
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391401

1. 授業のねらい・概要

3 年次までに習得した救急救命処置を、症例を通じてシミュレーション演習形式で知識・技術の定着を図る。実際の病院前医療で遭遇する頻度の高い事例について現場活動に即した観察・判断・処置・接遇・情報伝達が円滑に実施できることを目標とする。傷病者の受傷機転、病態生理による生体の構造・機能とその処置を理解する。事例の想定について臨床所見及び、病態変化を企画、立案し活動状況に応じた想定付与が可能となる能力を養う。

2. 授業の進め方

救急救命処置に関する知識と技術を向上させるために、シミュレーション型実技訓練に重点を置いて演習を展開する。本演習に必要な知識及び技術は国家試験対策を含めた内容に反映し、講義を含め実施していく。

3. 授業計画

1 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液 I (1) 静脈路確保と輸液 目的・適応・静脈路確保及び輸液プロトコール 資器材・合併症・注意点を理解する。 2 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液 II (1) アドレナリン投与 目的・適応・静脈路確保及び輸液プロトコール 資器材・合併症・注意点を理解する。 3 心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液 III (1) ブドウ糖溶液の投与 目的・適応・静脈路確保及び輸液プロトコール 資器材・合併症・注意点を理解する。 4 救急救命士が行う処置 I (1) 体位管理・体温管理 現場活動・資器材・注意点を理解し手技を習得する。 5 救急救命士が行う処置 II (1) 止血・創傷処置・固定 現場活動・資器材・注意点を理解し手技を習得する。 6 救急救命士が行う処置 III (1) 外因性の現場活動（車内救出等） 現場活動・使用資器材・注意点を理解する。 7 救急救命士が行う処置 IV (1) 熱傷 疫学・病態・熱傷評価・注意点を理解する。 8 救急救命士が行う処置 V (1) 化学損傷 疫学・病態・注意点を理解する。 9 救急救命士が行う処置 VI (1) 電撃症・雷撃症 病態・注意点の理解を深め、現場活動の手技を習得する。 9 救急救命士が行う処置 VII-1 (1) 総論・上気道の疾患・下気道と肺胞の疾患 傷病者に対する理解を深め、現場活動の手技を習得する。 10 救急救命士が行う処置 VII-2 (1) 感染症・胸膜疾患・その他の呼吸系の疾患 上記疾患傷病者に対する理解を深め、現場活動の手技を習得する。 11 救急救命士が行う処置 VIII-1 (1) 総論・心電図の観察 疫学等及び心電図の原理・誘導法・基本波形の知識を	16 救急救命士が行う処置 VIII-6 (1) その他の心疾患（感染性心膜炎） 疾患傷病者に対する理解を深め、現場活動の手技を習得する。 17 救急救命士が行う処置 VIII-7 (1) その他の心疾患（先天性心疾患） 疾患傷病者に対する理解を深め、現場活動の手技を習得する。 18 救急救命士が行う処置 VIII-8 (1) その他の心疾患（血管疾患） 疾患傷病者に対する理解を深め、現場活動の手技を習得する。 19 救急救命士が行う処置 VIII-9 (1) その他の心疾患（高血圧症） 疾患傷病者に対する理解を深め、現場活動の手技を習得する。 20 災害医療体制 I (1) トリアージ トリアージの概念・一次トリアージ・二次トリアージ 現場想定訓練からトリアージの概念と目的を理解し、その手技を習得する。 21 外因性の現場活動想定訓練 I (1) 状況評価、傷病者の評価について理解を深める。 現場想定訓練（高エネルギー外傷）を通し、救急処置の手技を習得する。 22 外因性の現場活動想定訓練 II (1) 状況評価、傷病者の評価について理解を深める。 現場想定訓練（頭部外傷・胸部外傷）を通し、救急処置の手技を習得する。 23 外因性の現場活動想定訓練 III (1) 状況評価、傷病者の評価について理解を深める。 現場想定訓練（腹部外傷）を通し、救急処置の手技を習得する。 24 外傷活動 I (1) 外傷性心肺停止に対する理解を深める。 現場想定訓練（骨盤外傷）を通し、救急処置の手技を習得する。 25 外傷活動 I (1) 外傷性心肺停止に対する理解を深める。 現場想定訓練（四肢外傷）を通し、救急処置の手技を習得する。 26 広範囲熱傷に対する活動 I (1) 広範囲熱傷に対する活動について理解を深める。 現場想定訓練を通し、救急処置の手技を習得する。 27 心停止に至る病態 I (1) 心原性心肺停止に至る病態について理解を深める。 現場想定訓練を通し、救急処置の手技を習得する。
---	---

習得する。 1 2 救急救命士が行う処置Ⅷ－2 (1) 虚血性心疾患 上記疾患傷病者に対する理解を深め、現場活動の手技を習得する。 1 3 救急救命士が行う処置Ⅷ－3 (1) 心筋疾患・心膜疾患 上記疾患傷病者に対する理解を深め、現場活動の手技を習得する。 1 4 救急救命士が行う処置Ⅷ－4 (1) 不整脈 上記疾患傷病者に対する理解を深め、現場活動の手技を習得する。 1 5 救急救命士が行う処置Ⅷ－5 (1) その他の心疾患（心臓弁膜症） 上記疾患傷病者に対する理解を深め、現場活動の手技を習得する。	2 8 非心原性心肺停止に対する観察・処置 (1) 非心原性心肺停止傷病者について理解を深める。 現場想定訓練を通し、救急処置の手技を習得する。 2 9 多数傷病者シミュレーション訓練Ⅰ (1) 多数傷病者に対するシミュレーション訓練を行う。 自然災害の訓練を通し、救急処置の手技を習得する。 3 0 多数傷病者シミュレーション訓練Ⅱ (1) 多数傷病者に対するシミュレーション訓練を行う。 トリアージ訓練を通し、救急処置の手技を習得する。
--	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート、小テストの見直し、ノート整理）を適宜提示する。これには週3時間以上を要する。実技については、次の授業までに訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 1) 小テスト

誤った問題についてはレポートにまとめ、次の授業時に提出しフィードバックを行う。
- 2) 課題
 - a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
 - b) 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 病院前救護活動における心肺停止症例に対し、基礎的な知識を習得し、かつ適切な観察・医療処置を実践する知識を習得することができる。
- 2) 病院前救護活動における外因性症例に対し、基礎的な知識を習得し、かつ適切な観察・医療処置を実践する知識を習得することができる。
- 3) 病院前救護活動における内因性疾患症例に対し、基礎的な知識を習得し、かつ適切な観察・医療処置を実践する知識を習得することができる。
- 4) 病院前救護活動における特殊疾患症例に対し、基礎的な知識を習得し、かつ適切な観察・医療処置を実践する知識を習得することができる。

7. 成績評価の方法・基準

成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力、技術の獲得ができたかを以下の方法で評価する。

- 1) 成績評価項目
 - a) 事前の授業の準備と理解の評価
 - b) 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
 - c) 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
 - d) 講義内容の理解度を試験で検討
- 2) 成績評価の方法
 - a) 授業内容の整理・提出（20%）
 - イ) 事前の授業の準備と理解
 - ロ) 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢
 - b) 実技試験
 - イ) 受験資格として80%以上の出席かつ、全てのレポートと課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ) 可否を判定する。不合格のまま単位が出されることはない。
 - ハ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し（但し追試験料は不要）、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ニ) 再試験は必要に応じて1回のみ実施する（但し再試験料は不要）。
 - c) 筆記試験（80%）
 - イ) 受験資格として80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。

- ロ) 中間試験は必要に応じて実施する。
- ハ) 中間試験・期末試験結果それぞれの点数の 60%以上を合格とする。
- ニ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
- ホ) 再試験は、中間試験・期末試験それぞれ必要に応じて 1 回のみ実施し、60%以上を合格とする。
- ヘ) 再試験の手続きについては履修要項を参照。

8. テキスト・参考文献

改訂第 11 版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
改訂 6 版 救急蘇生法の指針 2020 市民用・解説編(へるす出版)
改訂第 2 版補訂版 JPTEC ガイドブック (へるす出版)
PEMEC ガイドブック 2023 (へるす出版)
適宜指定するテキスト・資料

9. 受講上の留意事項

- 1) 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 2) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀、倫理感を養う。
- 3) 本科目は原則として、救急処置演習 A-Ⅲ、救急車内活動演習において、C 評価以上を得た者を対象とし、これに該当しない者は受講を認めない。
- 4) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。
 - a) 実習に相応しい身だしなみ(アイロンがけした制服、黒色または紺色の T シャツ、黒色または紺色の靴下、汚れていない内履、及び名札の着用)が履行できない場合。
 - b) 長い爪、髭、過度に明るく染色した頭髪、アクセサリーの着用等、社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で、相応しくないと認められる場合。
 - c) 使用するテキストや資料、個人資器材(腕時計、聴診器、ペンライト、ゴーグル)、その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
 - d) スマートフォンなど音の出る電子機器については、電源を切ることを原則とし、これに従わない場合。
 - e) 居眠りや落ち着きのない言動等、授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
 - f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻、及び 30 分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

特定行為処置演習		講義	准教授 甲田智之 講 師 田口弘茂
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野	科目ナンバリング	13391402

1. 授業のねらい・概要

病院前救護活動の主体は観察・判断・処置で構成されている。既に、各救急処置演習、救急車同乗実習、病院実習を通じて救急救命士が現場で行う一連の活動の手順は理解されているはずである。

本授業で現場の救急活動に対し、各々の適応・禁忌の根拠を病態生理学的に理解し、現場における鑑別診断に臨床推理を加えながらこれまでに得た知識の整理をする。特に傷病者観察の能力向上につなげ、判断・処置の知識整理を補足したい。

2. 授業の進め方

救急救命処置に関する知識と技術を向上させるために、シミュレーション型実技訓練に重点を置いて演習を展開する。本演習に必要な知識及び技術は国家試験対策を含めた内容に反映し、講義を含め実施していく。

3. 授業計画

1. 内因性疾患(循環系疾患) 非心停止傷病者の循環系疾患についての鑑別・処置を理解し、その症例問題を解き、知識を身に付ける。	16. スキルチェック 内因性疾患に対する救急活動を評価する。
2. 内因性疾患(循環系疾患) 緊急度・重症度判断, 観察・処置・判断について救急現場活動シミュレーションを行い, 習得する。	17. 内因性疾患(意識障害) 非心停止傷病者の意識障害をきたす疾患についての鑑別・処置を理解し、その症例問題を解き、知識を身に付ける。
3. 内因性疾患(胸痛) 非心停止傷病者の胸痛をきたす疾患についての鑑別・処置を理解し、その症例問題を解き、知識を身に付ける。	18. 内因性疾患(意識障害) 緊急度・重症度判断, 観察・処置・判断について救急現場活動シミュレーションを行い, 習得する。
4. 内因性疾患(胸痛) 緊急度・重症度判断, 観察・処置・判断について救急現場活動シミュレーションを行い, 習得する。	19. 内因性疾患(失神・痙攣) 非心停止傷病者の失神・痙攣をきたす疾患についての鑑別・処置を理解し、その症例問題を解き、知識を身に付ける。
5. 内因性疾患(呼吸系疾患) 非心停止傷病者の呼吸系疾患についての鑑別・処置を理解し、その症例問題を解き、知識を身に付ける。	20. 内因性疾患(失神・痙攣) 緊急度・重症度判断, 観察・処置・判断について救急現場活動シミュレーションを行い, 習得する。
6. 内因性疾患(呼吸系疾患) 緊急度・重症度判断, 観察・処置・判断について救急現場活動シミュレーションを行い, 習得する。	21. 内因性疾患(血液・免疫系疾患) 非心停止傷病者の血液・免疫系疾患についての鑑別・処置を理解し、その症例問題を解き、知識を身に付ける。
7. 内因性疾患(腰背部痛) 非心停止傷病者の腰背部痛をきたす疾患についての鑑別・処置を理解し、その症例問題を解き、知識を身に付ける。	22. 内因性疾患(血液・免疫系) 緊急度・重症度判断, 観察・処置・判断について救急現場活動シミュレーションを行い, 習得する。
8. 内因性疾患(腰背部痛) 緊急度・重症度判断, 観察・処置・判断について救急現場活動シミュレーションを行い, 習得する。	23. 特殊疾患・環境障害 外因性疾患における環境障害がもたらす影響についての病態生理および発生機序について理解し、その症例問題を解き、知識を身に付ける。
9. 内因性疾患(消化系疾患) 非心停止傷病者の消化系疾患についての鑑別・処置を理解し、その症例問題を解き、知識を身に付ける。	24. 特殊疾患・環境障害 緊急度・重症度判断, 観察・処置・判断について救急現場活動シミュレーションを行い, 習得する。
10. 内因性疾患(消化系疾患) 緊急度・重症度判断, 観察・処置・判断について救急現場活動シミュレーションを行い, 習得する。	25. 産科救急(分娩) 緊急度・重症度判断, 観察・処置・判断について理解し、その症例問題を解き、知識を身に付ける。
11. 内因性疾患(神経系疾患) 非心停止傷病者の神経系疾患についての鑑別・処置を理解し、その症例問題を解き、知識を身に付ける。	26. 産科救急(新生児蘇生) 緊急度・重症度判断, 観察・処置・判断について救急現場活動シミュレーションを行い, 習得する。
12. 内因性疾患(神経系疾患) 緊急度・重症度判断, 観察・処置・判断について救急現場活動シミュレーションを行い, 習得する。	27. 産科救急(母体の急変) 緊急度・重症度判断, 観察・処置・判断について救急現場活動シミュレーションを行い, 習得する。
13. 内因性疾患(頭痛) 非心停止傷病者の頭痛をきたす疾患についての鑑別・処置を理解し、その症例問題を解き、知識を身に付ける。	28. 産科救急(救急隊活動一連の流れ) 緊急度・重症度判断, 観察・処置・判断について救急現場活動シミュレーションを行い, 習得する。
14. 内因性疾患(頭痛)	29. 筆記試験

緊急度・重症度判断, 観察・処置・判断について救急現場活動シミュレーションを行い, 習得する。 15. 筆記試験 第1回～14回までのまとめ試験を行う。	第17回～28回までのまとめ試験を行う。 30. スキルチェック 内因性疾患・特殊疾患・環境障害に関する一連の活動を評価する。
---	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート、小テストの見直し、ノート整理）を適宜提示する。これには週3時間以上を要する。実技については、次回の授業までに訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 小テスト

誤った問題についてはレポートにまとめ、次回の授業時に提出しフィードバックを行う。

2) 課題

- 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
- 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 国家試験に頻出される内因性疾患の問題の抽出と、徹底的な病態の議論による問題の解決。
- 現場の救急活動に対し、各々の適応・禁忌の根拠を病態生理学的に理解する。
- 現場における鑑別診断に臨床推論を交えながらこれまで得た知識の整理をする。
- 傷病者観察の能力向上につなげ、判断・処置の知識を整理する。

7. 成績評価の方法・基準

成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力、技術の獲得ができたかを以下の方法で評価する。

1) 成績評価項目

- 事前の授業の準備と理解の評価
- 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
- 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
- 講義内容の理解度を試験で検討

2) 成績評価の方法

- 授業内容の整理・提出（20%）
 - 事前の授業の準備と理解
 - 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢
- 実技試験
 - 受験資格として80%以上の出席かつ、全てのレポートと課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - 可否を判定する。不合格のまま単位が出されることはない。
 - 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し（但し追試験料は不要）、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - 再試験は必要に応じて1回のみ実施する（但し再試験料は不要）。
- 筆記試験（80%）
 - 受験資格として80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - 中間試験は必要に応じて実施する。
 - 中間試験・期末試験結果それぞれの点数の60%以上を合格とする。
 - 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - 再試験は、中間試験・期末試験それぞれ必要に応じて1回のみ実施し、60%以上を合格とする。
 - 再試験の手続きについては履修要項を参照。

8. テキスト・参考文献

改訂第11版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）
 改訂6版 救急蘇生法の指針2020 市民用・解説編（へるす出版）
 改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック（へるす出版）
 PEMEC ガイドブック2023（へるす出版）
 適宜指定するテキスト・資料

9. 受講上の留意事項

- 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀、倫理感を養う。
- 本科目は原則として、救急処置演習A-III、救急車内活動演習において、C評価以上を得た者を対象とし、これに該当しない者は受講を認めない。

4) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。

- a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服，黒色または紺色の T シャツ，黒色または紺色の靴下，汚れていない内履，及び名札の着用）が履行できない場合。
- b) 長い爪，髭，過度に明るく染色した頭髪，アクセサリーの着用等，社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で，相応しくないと認められる場合。
- c) 使用するテキストや資料，個人資器材（腕時計，聴診器，ペンライト，ゴーグル），その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
- d) スマートフォンなど音の出る電子機器については，電源を切ることを原則とし，これに従わない場合。
- e) 居眠りや落ち着きのない言動等，授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
- f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻，及び 30 分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は，公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

救急処置演習 A-V		講義	教授 千明 政好 講師 田口 弘茂
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391403

1. 授業のねらい・概要

救急救命士に必要とされた救急救命処置(特定行為)の理論と基本的実技に関して、平成 26 年 4 月より新しく追加された各種ショックやコンパートメント症候群に対する心停止前輸液、血糖測定、ブドウ糖溶液投与のプロトコール、院内二次救命処置を含め、シミュレーション演習を通じて理解する。

また、インフォームドコンセントの在り方、コミュニケーションの在り方等についても実践するように進める。

2. 授業の進め方

救急救命処置に関する知識と技術を向上させるために、シミュレーション型実技訓練に重点を置いて演習を展開する。本演習に必要な知識及び技術は講義を含め実施していく。

3. 授業計画

回	授業内容	授業形態	担当
1	ガイダンス・心肺停止に陥る原因疾患の鑑別 心原性・除細動プロトコールについて	講義	千明政好
2	救急症候学①意識障害②頭痛・痙攣	講義	千明
3	院外心原性心肺停止傷病者に対するシミュレーション訓練 BLS と AED	演習	千明 田口弘茂 水上治彦
4	院外心原性心肺停止傷病者に対するシミュレーション訓練	演習	千明 田口弘茂 水上治彦
5	実技・知識試験①(心原性心肺停止対応)	講義演習	千明田口水上
6	薬剤投与プロトコールについて	講義	千明
7	非心原性心肺停止傷病者に対するシミュレーション訓練	演習	田口千明水上
8	非心原性心肺停止傷病者に対するシミュレーション訓練	演習	田口千明水上
9	救急症候学③運動麻痺・めまい 小試験①薬剤投与プロトコールについて	講義	千明
10	実技・知識試験②(心原性心停止薬剤投与)	演習	千明田口水上
11	救急救命処置拡大の変遷と新たな拡大処置・血糖測定とブドウ糖投与	講義	千明
12	ブドウ糖投与プロトコールについて 血糖測定方法	講義演習	田口
13	静脈路確保とブドウ糖溶液の投与	演習	田口千明水上
14	静脈路確保とブドウ糖溶液の投与	演習	田口千明水上
15	実技・知識試験③(血糖測定とブドウ糖投与)	講義演習	田口
	確認小試験①意識障害・頭痛・痙攣、ブドウ糖投与、心停止薬剤投与など	講義	千明
16	救急症候学④呼吸困難・失神⑤胸痛・不整脈	講義	千明
17	救急症候学⑥腹痛・腰痛・背部痛	講義	千明
18	意識障害の傷病者に対するシミュレーション訓練	演習	千明田口水上
19	意識障害の傷病者に対するシミュレーション訓練	演習	千明田口水上
20	実技・知識試験④(意識障害の鑑別)	講義演習	千明
21	心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液、 意識のある傷病者に対するリスクマネジメント	講義	田口
22	心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液シミュレーション訓練(内・外因性傷病者)	演習	田口千明水上
23	心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液シミュレーション訓練(内・外因性傷病者)	演習	田口千明水上
24	実技・知識試験⑤(心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液)	講義演習	田口
25	ショックの病態生理 二次救命処置 ICLS	講義	千明
26	心肺機能停止の院内蘇生シミュレーション訓練(ICLS)	講義	千明田口水上
27	心肺機能停止の院内蘇生シミュレーション訓練(ICLS)	講義	千明田口水上
28	心肺機能停止の院内蘇生シミュレーション訓練(ICLS)	演習	千明田口水上
29	心肺機能停止の院内蘇生シミュレーション訓練(ICLS)	演習	千明田口水上

30	確認小試験②運動麻痺・めまい 呼吸困難・失神 静脈路確保 ショック 胸痛・不整脈など	講義	千明
	確認試験	講義	千明

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業計画に応じた予習・復習を必ず行い参加すること。予習と復習には毎週3時間以上を要する。手技については、次の授業までに訓練し修得すること。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 1) 試験
実技試験中心であるが筆記試験も行う。試験直後に回答と解説を行う。
- 2) 課題
 - a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
 - b) 課題で重要な部分は、授業中にその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 救急救命士に必要なとされた救急救命処置(特定行為)の理論と基本的実技を理解できる
- 2) 各種ショックや心停止、コンパートメント症候群に対する心肺機能停止前輸液判断をシミュレーションで実施し理解できる
- 3) 低血糖傷病者に対してブドウ糖投与プロトコルを、シミュレーション演習を通じて理解できる
- 4) 意識障害やショック、院内心停止傷病者への適切な判断と処置の実践できる
- 5) 心肺機能停止前の傷病者に静脈路確保や薬剤投与を行うためにインフォームドコンセントを理解できる

7. 成績評価の方法・基準

成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力、技術の獲得ができたかを以下の方法で評価する。

- 1) 成績評価項目
 - a) 事前の授業の準備と理解の評価
 - b) 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
 - c) 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
 - d) 講義内容の理解度を試験で検討
- 2) 成績評価の方法
 - a) 授業内容の整理・提出・取り組み姿勢（20%）
 - イ) 事前の授業の準備と理解
 - ロ) 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢
 - b) 実技試験（40%）
 - イ) 受験資格として80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している必要がある。
 - ロ) 合格を判定する。不合格のまま単位が出されることはない。
 - ハ) 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し（但し追試験料は不要）、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ニ) 再試験は必要に応じて1回のみ実施する（但し再試験料は不要）。
 - c) 筆記試験（40%）
 - イ) 受験資格として2/3以上の出席が必要である。
 - ロ) 再試験は、実施しない。

8. テキスト・参考文献

救急救命士標準テキスト編集委員会：改訂第11版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）2025。
 JPTEC 協議会編著：改訂第2版補訂版 JPTEC ガイドブック（へるす出版）2022。
 田中秀治編，必修救急救命士国家試験対策問題集2026，文光堂，2025。
 PEMEC ガイドブック2023（へるす出版）
 適宜指定するテキスト

9. 受講上の留意事項

- 1) 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 2) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動，集団生活における時間管理・規律，礼儀，倫理感を養えるように授業に参加すること。
- 3) 本科目は原則として、救急処置演習A-Ⅲ，救急車内活動演習において、C評価以上を得た者を対象とし、これに

該当しない者は受講を認めない。

4) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。

- a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服，黒色または紺色の T シャツ，黒色または紺色の靴下，汚れていない内履，及び名札の着用）が履行できない場合
- b) 長い爪，髭，過度に明るく染色した頭髪，アクセサリーの着用等，社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で，相応しくないと認められる場合
- c) 使用するテキストや資料，個人資器材（腕時計，聴診器，ペンライト，ゴーグル），その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合
- d) スマートフォンなど音の出る電子機器については，電源を切ることを原則とし，これに従わない場合
- e) 居眠りや落ち着きのない言動等，授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合
- f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻，及び 30 分以上の遅刻

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は，大学病院救命救急センターや集中治療室等における20年以上の実務経験を活かして指導する

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。救急救命士コースの専門科目である。

救急処置実習B-I		実習	准教授 古川 慎太郎 准教授 甲田 智之 講師 田口 弘茂 助教 水上 治彦	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391303	

1. 授業のねらい・概要

医療機関における臨地実習を通じて救急救命士として必要な医療安全、感染対策、チーム医療を理解するとともに、事前事後教養を通じて病院内救急医療活動に必要な知識・技術の修得を図る。また、病院前で活動する救急隊の活動を病院内スタッフとして客観視することにより、医療従事者として救急救命士が何を求められているかを考えるきっかけとする。

2. 授業の進め方

病院実習に臨むにあたり、事前に基礎知識を修得するための座学・実習を行う。これにより病院実習に参加する上で最低限の能力を有していると認めた学生に限り、実習先の医療機関を割り当て臨地実習を行う。

3. 授業計画

1. 病院実習に対する心構え 病院実習に臨むにあたり、目標や現在まで学んできた医学知識と技術について整理を行う。 2. 病院実習に関するマナー 病院のマナー（他の医療スタッフや患者との対応）について理解を深め、知識を整理する。 3. 病院の機能（組織・各部門の業務） 病院の機能（組織・各部門の業務）について理解を深め、知識を整理する。 4. 医師の仕事と役割 医師の仕事と役割について理解を深め、知識を整理する。 5. 看護師、その他医療スタッフの仕事と役割 看護師、その他医療スタッフの仕事と役割について理解を深め、知識を整理する。 6. 病院における救急患者への接遇 病院における救急患者への理解を深め、知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 7. 救急患者の家族への接遇 救急患者の家族への接遇要領について理解を深め、知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 8. 救急患者に対するケアとインフォームド・コンセント 救急患者に対する排痰・吸引・おむつ交換や体位管理といったケアとインフォームド・コンセントの重要性について理解を深め、知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 9. 患者家族に対するケアとインフォームド・コンセント	17. 救急患者に対する処置（デバイスを使用した気道確保） 救急患者に対するデバイスを使用した気道確保の要領について理解を深め、知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 18. 救急患者に対する処置（手術時の気道確保） 手術時に救急患者に対して実施される気道確保要領について理解を深め、知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 19. 救急患者に対する処置（緊急時の気道確保） 大量の口腔内出血がみられる救急患者に対する外科的気道確保要領について理解を深め、知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 20. 救急患者に対する処置（まとめ） 救急患者に対する気道確保の種類や判断についての知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 21. 救急患者に対する処置（静脈路確保） 救急患者へ静脈路確保を行うために、迅速・清潔な準備要領について理解を深め、知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 22. 救急患者に対する処置（静脈路確保） 意識がある救急患者に対する静脈路確保要領について理解を深め、知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。
--	---

ト 患者家族に対するケアとインフォームド・コンセントの重要性についての知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 10. 救急患者の観察（五感による観察） 救急患者に対する五感（視診・触診・打診）を活用した観察要領についての知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 11. 救急患者の観察（資機材による観察） 救急患者に対する聴診器、血圧計といった資器材を使用した観察要領についての知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 12. 救急患者の観察（心電図） 救急患者に対する12誘導心電図の貼付方法、取得方法や読影方法についての知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 13. 救急患者の観察（処置の維持管理状態の観察） 救急患者の体内に挿入されているチューブや点滴といった処置内容が適正・継続的に維持管理されているかの観察要領についての知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 14. 救急患者の観察（画像診断検査による観察） 救急患者に対するX線、超音波やMRIといった画像診断検査に伴う患者の移動方法、撮影方法や読影方法についての知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 15. 救急患者に対する観察（まとめ） 救急患者に対する観察の組合せや判断についての知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 16. 救急患者に対する処置（用手気道確保） 救急患者に対する用手気道確保の要領について理解を深め、知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。	23. 救急患者に対する処置（静脈路確保） 意識障害がある救急患者に対する静脈路確保要領について理解を深め、知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 24. 救急患者に対する処置（静脈路確保） CPA, 患者に対する静脈路確保要領について理解を深め、知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 25. 救急患者に対する処置（静脈路確保） 救急患者に対する静脈路確保の準備や判断についての知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 26. 入院患者に対するナースিংケア実習 入院患者に対するナースিংケアとは何かについて理解を深め、知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 27. 入院患者に対するナースিংケア実習 入院患者に対するナースিংケアを行うにあたり、必要となるコミュニケーションや患者の観察要領について理解を深め、知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 28. 入院患者に対するナースিংケア実習 ベッド上での患者の体位変換について理解を深め、知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 29. 入院患者に対するナースিংケア実習 入院患者に対する排痰や吸引要領について理解を深め、知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。 30. 入院患者に対するナースিংケア実習 入院患者に対するナースিংケアの重要性と必要性について理解を深め、知識を整理する。さらに、実習で経験したことを他の学内演習や実習で実践出来るように技術を向上させる。
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート、小テストの見直し、ノート整理）を適宜提示する。これには週6時間以上を要する。実技については訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 小テスト

誤った問題についてはレポートにまとめ、次回の授業時に提出しフィードバックを行う。

- 2) 課題
 - a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
 - b) 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。
- 3) 実技試験
 - a) フィードバックは、実技不適部分を中心に行う。
 - b) 学生から質問された疑問点は、個別に回答する。
- 4) 筆記試験
 - a) 解答は口頭で発表する。
 - b) 解説は不正解問題を中心に行う。

6. 到達目標

- 1) 実際の患者に接して専門医師や医療スタッフの役割について理解を深める。
- 2) 医療処置や患者対応について理解を深める。
- 3) 患者を医療者としての観察・判断能力を高める。

7. 成績評価の方法・基準

- 1) 成績評価の基準
実習に取り組む姿勢及び患者との接遇が適切に出来ている。また、経験した症例について理解している。
- 2) 成績評価の方法
 - a) 病院実習指導医による評価 (40%)
 - b) 症例レポート (40%)
 - c) 症例発表会の内容 (20%)

8. テキスト・参考文献

改訂第 11 版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
診察と手技が見える NO. 1 (メディックメディア)
診察と手技が見える NO. 2 (メディックメディア)

9. 受講上の留意事項

- 1) 基本的に、当科目履修前に事前履修しておく科目として、「救急処置演習 A-I」、「蘇生処置演習」、「救急処置演習 A-II」、「外傷救急処置演習」、「解剖学」、「生理学」、「生化学」とする。
- 2) 実習を受けるにあたり必要な書類・検査を実施し、期限内に同意書・ワクチン接種証明書・母子手帳を提出した学生のみ履修できる。また、実習前に行われるガイダンスの内容を十分理解した上で、「2. 授業の進め方」に示す事前教養を経た学生のみが、医療機関での実習を受けられる。ガイダンスで示す事項等を遵守できない場合、または事前教養で不適と認められた学生については、医療機関における実習は認めない。なお、医療機関における所要の実習を受けることができなかった学生については、単位認定を行わない。
- 3) 実習先医療機関より、実習態度不良や実習継続不能等についての連絡があった場合および、指定した服装・物品・持参書類などの不備があった場合には、所要の調査を行い、実習中止措置をとるとともに単位認定を行わない。実習終了後であっても同様とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本演習は、救急医療機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリ」欄の記載のとおり。

救急処置実習B-II		実習	准教授 古川 慎太郎 准教授 甲田 智之 講 師 田口 弘茂 助 教 水上 治彦	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391404	

1. 授業のねらい・概要

医療機関における臨地実習を通じて救急救命士として必要な医療安全、感染対策、チーム医療を理解するとともに、事前事後教養を通じて病院内救急医療活動に必要な知識・技術の修得を図る。また、病院前で活動する救急隊の活動を病院内スタッフとして客観視することにより、医療従事者として救急救命士が何を求められているかを考えるきっかけとする。

2. 授業の進め方

病院実習に臨むにあたり、事前に基礎知識を修得するための座学・実習を行う。これにより病院実習に参加する上で最低限の能力を有していると認めた学生に限り、実習先の医療機関を割り当て臨地実習を行う。

3. 授業計画

1. 病院実習に対する心構え 実習前の目標とやるべき事について整理をして実習に臨むこと。	17. 外因性（脊椎・脊髄）救急患者に対する観察・処置要領について理解を深める。
2. 病院実習に関するマナーについて理解を深める。	18. 外因性（腹部）救急患者に対する観察・処置要領について理解を深める。
3. 病院の機能（組織・各部門の業務）について理解を深める。	19. 外因性（骨盤）救急患者に対する観察・処置要領について理解を深める。
4. 医師の仕事と役割について理解を深める。	20. 外因性（四肢外傷・皮膚・軟部組織外傷）救急患者に対する観察・処置要領について理解を深める。
5. 看護師、その他医療スタッフの仕事と役割について理解を深める。	21. 熱傷（電撃）・化学損傷・刺咬傷救急患者に対する観察・処置要領について理解を深める。
6. 病院における救急患者への接遇要領について理解を深める。	22. その他外因性救急患者に対する観察・処置について理解を深める。
7. 救急患者の家族への接遇要領について理解を深める。	23. 産科救急患者に対する観察・処置要領について理解を深める。
8. 救急患者に対するケアとインフォームド・コンセントの重要性について理解を深める。	24. 入院患者に対するナースィングケアについて理解を深める。
9. 患者家族に対するケアとインフォームド・コンセントの重要性について理解を深める。	25. 救急患者に対する静脈路確保の処置要領について理解を深める。
10. 内因性（循環系）救急患者に対する観察・処置要領について理解を深める。	26. 救急患者に対する薬剤投与の処置要領について理解を深める。
11. 内因性（呼吸系）救急患者に対する観察・処置要領について理解を深める。	27. 救急患者に対する挿管の処置要領について理解を深める。
12. 内因性（消化系）救急患者に対する観察・処置要領について理解を深める。	28. 救急隊の救急救命士が実施した特定行為について理解を深める。
13. 内因性（神経系）救急患者に対する観察・処置要領について理解を深める。	29. 搬送した救急隊の引き継ぎ要領について理解を深める。
14. 内因性（その他疾患）救急患者に対する観察・処置要領について理解を深める。	30. 病院実習で経験した観察・処置要領のまとめ 救急患者に対する観察・処置要領について経験したことを理解し、まとめる。
15. 外因性（胸部）救急患者に対する観察・処置要領について理解を深める。	
16. 外因性（頭部）救急患者に対する観察・処置要領について理解を深める。	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート、小テストの見直し、ノート整理）を適宜提示する。これには週6時間以上を要する。実技については訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 1) 小テスト
誤った問題についてはレポートにまとめ、次の授業時に提出しフィードバックを行う。
- 2) 課題
 - a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
 - b) 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。
- 3) 実技試験
 - a) フィードバックは、実技不適部分を中心に行う。
 - b) 学生から質問された疑問点は、個別に回答する。
- 4) 筆記試験
 - a) 解答は口頭で発表する。
 - b) 解説は不正解問題を中心に行う。

6. 到達目標

- 1) 実際の患者に接して専門医師や医療スタッフの役割について理解を深める。
- 2) 医療処置や患者対応について理解を深める。
- 3) 患者を医療者としての観察・判断能力を高める。

7. 成績評価の方法・基準

- 1) 成績評価の基準
実習に取り組む姿勢及び患者との接遇が適切に出来ている。また、経験した症例について理解している。
- 2) 成績評価の方法
 - a) 病院実習指導医による評価（40%）
 - b) 症例レポート（40%）
 - c) 症例発表会の内容（20%）

8. テキスト・参考文献

改訂第11版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
診察と手技が見える NO. 1 (メディックメディア)
診察と手技が見える NO. 2 (メディックメディア)

9. 受講上の留意事項

- 1) 基本的に、当科目履修前に事前履修しておく科目として、「救急処置演習 A-I」、「蘇生処置演習」、「救急処置演習 A-II」、「外傷救急処置演習」、「救急処置演習 A-III」、「救急車内活動演習」、「解剖学」、「生理学」、「生化学」、「救急処置実習 B-I」とする。
- 2) 実習を受けるにあたり必要な書類・検査を実施し、期限内に同意書・ワクチン接種証明書・母子手帳を提出した学生のみ履修できる。また、実習前に行われるガイダンスの内容を十分理解した上で、「2. 授業の進め方」に示す事前教養を経た学生のみが、医療機関での実習を受けられる。ガイダンスで示す事項等を遵守できない場合、または事前教養で不適と認められた学生については、医療機関における実習は認めない。なお、医療機関における所要の実習を受けることができなかった学生については、単位認定を行わない。
- 3) 実習先医療機関より、実習態度不良や実習継続不能等についての連絡があった場合および、指定した服装・物品・持参書類などの不備があった場合には、所要の調査を行い、実習中止措置をとるとともに単位認定を行わない。実習修了後であっても同様とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本演習は、救急医療機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

救急処置実習 C-I		実習	准教授 古川 慎太郎 准教授 甲田 智之
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391304

1. 授業のねらい・概要

消防機関における臨地実習を通じて、出場指令から出場までの対応をはじめ、緊急走行、現場到着時の安全管理、各種救急事故現場での救急隊員の活動、指示要請等の救急無線運用、傷病者・家族関係者との接遇、医療機関選定及び医師への引き継ぎ等の対応要領など、救急業務の専門性について理解するとともに、事前事後教養を通じて救急活動に必要な知識・技術の修得を図る。また、自らが目指す救急救命士像を考えるきっかけとする。

2. 授業の進め方

消防実習に臨むにあたり、事前に基礎知識を修得するための座学・実習を行う。これにより消防実習に参加する上で最低限の能力を有していると認めた学生に限り、実習先の消防機関を割り当て臨地実習を行う。

3. 授業計画

1. 同乗実習における注意事項 同乗実習を行うにあたり、身なり・態度・必要な知識と技術について理解する。 2. 引き継ぎ要領と車両・資器材の点検要領 引き継ぎ要領、体調状態の把握、資器材点検要領（個数の把握と補充）についての理解を深める。 3. 救急活動の実態 救急事案で挙げられる事故種別の種類とその実数についての理解を深める。 4. 出場指令時の対応要領 出場指令の受け取り方法、指令内容の把握、事故現場までの経路について理解を深める。 5. 救急出場時の対応 乗車位置、車両内に積んでいる救急資器材の確認、赤色灯やサイレンの調整について理解を深める。 6. 救急出場時の確認事項 緊急走行に伴う道路状況や走行路の確保について理解を深める。 7. 救急無線運用 傷病者情報（受傷機転・人数・傷病程度の把握）や応援隊の有無の確認方法について理解を深める。 8. 診療情報システム 受け入れ病院の受診体制の把握について理解する。 9. 緊急車両の要件 公安委員会が定める緊急走行についての法律や体制について理解を深める。 10. 出場途上の措置 傷病者情報（受傷機転・人数・傷病程度の把握）に関する追加情報について理解する。 11. 救急車の交通事故防止対策 緊急走行に伴う交通事故防止対策について理解を深める。 12. 現場到着時の措置	16. ストレッチャーへの傷病者収容 ストレッチャーの構造や操作方法について知り、傷病者収容についての理解を深める。 17. ストレッチャー曳航要領 ストレッチャーの構造や操作方法に関する知識を基に、曳航要領について理解を深める。 18. 傷病者車内収容 ストレッチャーの構造、操作方法や曳航要領に関する知識を基に、傷病者を緊急車両内に収容することについて理解を深める。 19. 現場出発時の措置 緊急車両の走行中の振動について知り、振動を抑える対応について理解を深める。 20. 救急活動と接遇 傷病者、家族や関係者との接遇について理解を深める。 21. 感染防止対策 緊急車両内が吐物や薬物で汚染された場合の対応について理解を深める。 22. 傷病者の医師引き継ぎ要領 傷病者を医師に引き継ぐ場合に必要となる情報、言動について知り、救急活動記録表の必要性について理解を深める。 23. 模擬救急出場 事故の概要について理解を深める。 24. 模擬救急出場 感染防止について理解を深める。 25. 模擬救急出場 救急資器材について理解を深める。 26. 模擬救急出場 安全管理について理解を深める。 27. 模擬救急出場 多職種連携について理解を深める。
---	--

緊急車両の停車位置や安全な車両停車について理解を深める。 13. 救急現場での活動 傷病者がいる場所（急病や事故発生場所）での安全管理と維持について理解を深める。 14. 医療機関選定の原則 医療機関選定について理解を深める。 15. 転院搬送時の留意点 転院搬送の制度や手順について理解を深める。	28. 模擬救急出場 早期傷病者搬送について理解を深める。 29. 事例検討 実習でどんな事例を体験したかを振り返り, 実習で学んだことをまとめる。 30. 発表会 事例の整理やプレゼンテーションの作成を行い, 発表を行う。
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート、小テストの見直し、ノート整理）を適宜提示する。これには週6時間以上を要する。実技については訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 1) 小テスト
誤った問題についてはレポートにまとめ、次回の授業時に提出しフィードバックを行う。
- 2) 課題
 - a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
 - b) 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。
- 3) 実技試験
 - a) フィードバックは、実技不適部分を中心に行う。
 - b) 学生から質問された疑問点は、個別に回答する。
- 4) 筆記試験
 - a) 解答は口頭で発表する。
 - b) 解説は不正解問題を中心に行う。

6. 到達目標

- 1) 緊急車両の走行について理解を深める。
- 2) 指令本部との無線連絡について理解を深める。
- 3) 傷病者及び家族関係者とのコミュニケーションについて理解を深める。
- 4) 救急救命士に要求される観察・判断・救急処置・搬送の連携について理解を深める。

7. 成績評価の方法・基準

- 1) 成績評価の基準
実習に取り組む姿勢及び患者との接遇が適切に出来ている。また、経験した症例について理解している。
- 2) 成績評価の方法
 - a) 消防本部による評価（40%）
 - b) 症例レポート（40%）
 - c) 症例発表会の内容（20%）

8. テキスト・参考文献

改訂第11版 救急救命士標準テキスト(へるす出版)
5訂版 救急資器材管理マニュアル(東京法令出版)

9. 受講上の留意事項

- 1) 基本的に、当科目履修前に事前履修しておく科目として、「救急処置演習 A-I」、「蘇生処置演習」、「救急処置演習 A-II」、「外傷救急処置演習」、「解剖学」、「生理学」、「生化学」とする。

- 2) 実習を受けるにあたり必要な書類・検査を実施し、期限内に同意書・ワクチン接種証明書・母子手帳を提出した学生のみ履修できる。また、実習前に行われるガイダンスの内容を十分理解した上で、「2. 授業の進め方」に示す事前教養を経た学生のみが、医療機関での実習を受けられる。ガイダンスで示す事項等を遵守できない場合、または事前教養で不適と認められた学生については、医療機関における実習は認めない。なお、医療機関における所要の実習を受けることができなかった学生については、単位認定を行わない。
- 3) 実習先医療機関より、実習態度不良や実習継続不能等についての連絡があった場合および、指定した服装・物品・持参書類などの不備があった場合には、所要の調査を行い、実習中止措置をとるとともに単位認定を行わない。実習修了後であっても同様とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本演習は、公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

救急処置実習 C-II		実習	准教授 古川 慎太郎 准教授 甲田 智之
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391405

1. 授業のねらい・概要

消防機関における臨地実習を通じて、出場指令から出場までの対応をはじめ、緊急走行、現場到着時の安全管理、各種救急事故現場での救急隊員の活動、指示要請等の救急無線運用、傷病者・家族関係者との接遇、医療機関選定及び医師への引き継ぎ等の対応要領など、救急業務の専門性について理解するとともに、事前事後教養を通じて救急活動に必要な知識・技術の修得を図る。また、自らが目指す救急救命士像を考えるきっかけとする。

2. 授業の進め方

消防実習に臨むにあたり、事前に基礎知識を修得するための座学・実習を行う。これにより消防実習に参加する上で最低限の能力を有していると認めた学生に限り、実習先の消防機関を割り当て臨地実習を行う。

3. 授業計画

1. 実習ガイダンス 実習に臨むにあたり、救急隊による基本的活動（救急活動の流れ、119 番通報受信から医療機関収容、救急無線通信要領等）について理解を深める。	16. 心肺機能停止傷病者（小児） 活動要領及び CPR 着手判断・CPR 実施要領について理解を深める。
2. 救急活動の実態 救急隊による、救急活動の原則、PA 連携活動について理解を深める。	17. 心肺機能停止傷病者（成人） 活動要領及び除細動・特定行為（LM・LT 等）・指示要請・救命士報告について理解を深める。
3. 接遇 傷病者等への接遇について理解を深める。	18. 高層階での心肺機能停止傷病者 活動要領及び除細動・特定行為（静脈路確保・薬剤投与）・指示要請・救命士報告・PA 連携活動について理解を深める。
4. 記録の作成 救急隊による、救急活動記録票の記載要領について理解を深める。	19. 狭隘場所での心肺機能停止傷病者 活動要領及び除細動・特定行為（気管挿管・静脈路確保・薬剤投与）・指示要請・救命士報告・PA 連携・関係者の活用について理解を深める。
5. 搬送手段 メインストレッチャー・サブストレッチャー・布担架の取り扱い要領について理解を深める。	20. 自宅浴槽内での心肺機能停止傷病者 活動要領及び特定行為（気管挿管・静脈路確保・薬剤投与）・指示要請・救命士報告・応援要請・関係者の活用について理解を深める。
6. 資器材 創傷保護用資器材・骨折固定用資器材・全身固定資器材・呼吸資器材・の取り扱いについて理解を深める	21. 救急現場におけるトラブル 出場途上・現場到着時・医療機関選定・器物損壊・搬送途上の対応要領について理解を深める。
7. 応急処置 気道異物・呼吸機能停止・心肺機能停止・回復兆候について理解を深める。	22. 多数傷病者発生現場 活動要領及び最先到着救急隊の任務・応援隊との連携活動・トリアージ・部隊運用、活動体制、指揮本部・救急指揮所・現場救護所の運営について理解を深める。
8. 活動障害（狭隘・階段等） 心肺機能停止傷病者に対する活動要領及び応援要請要領について理解を深める。	23. 救急出場 事故の概要について理解を深める。
9. 呼吸困難傷病者 状況聴取・観察判断（重症度、緊急度）・救急処置・搬送時の留意点について理解を深める。	24. 救急出場 感染防止について理解を深める。
10. 循環系疾患傷病者 状況聴取・観察判断（重症度、緊急度）・救急処置・搬送時の留意点について理解を深める。	25. 救急出場 救急資器材について理解を深める。
11. 気道閉塞（異物）傷病者 喉頭鏡・マギール鉗子による異物除去・気管挿管・	26. 救急出場

指示要請・救命士報告要領について理解を深める。	安全管理について理解を深める。
12. 交通外傷（車両閉じ込め）傷病者 活動要領及び応援要請・交通事故現場の安全管理について理解を深める。	27. 救急出場 多職種連携について理解を深める。
13. 二輪車交通外傷 活動要領及び応援要請・交通事故現場の安全管理について理解を深める。	28. 救急出場 早期傷病者搬送について理解を深める。
14. 在宅医療処置継続傷病者 活動要領及び状況聴取・観察判断（重症度、緊急度）・救急処置・搬送時の留意点について理解を深める。	29. 事例検討 実習でどんな事例を体験したかを振り返り、実習で学んだことをまとめる。
15. 分娩介助と新生児仮死 活動要領及び状況聴取・観察判断（重症度、緊急度）・救急処置・搬送時の留意点について理解を深める。	30. 発表会 事例の整理やプレゼンテーションの作成を行い、発表を行う。

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート、小テストの見直し、ノート整理）を適宜提示する。これには週6時間以上を要する。実技については訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- 1) 小テスト
誤った問題についてはレポートにまとめ、次回の授業時に提出しフィードバックを行う。
- 2) 課題
 - a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
 - b) 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。
- 3) 実技試験
 - a) フィードバックは、実技不適部分を中心に行う。
 - b) 学生から質問された疑問点は、個別に回答する。
- 4) 筆記試験
 - a) 解答は口頭で発表する。
 - b) 解説は不正解問題を中心に行う。

6. 到達目標

- 1) 緊急車両の走行について理解を深める。
- 2) 指令本部との無線連絡について理解を深める。
- 3) 傷病者及び家族関係者とのコミュニケーションについて理解を深める。
- 4) 救急救命士に要求される観察・判断・救急処置・搬送の連携について理解を深める。

7. 成績評価の方法・基準

- 1) 成績評価の基準
実習に取り組む姿勢及び患者との接遇が適切に出来ている。また、経験した症例について理解している。
- 2) 成績評価の方法
 - a) 消防本部による評価（40%）
 - b) 症例レポート（40%）
 - c) 症例発表会の内容（20%）

8. テキスト・参考文献

改訂第11版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）
5訂版 救急資器材管理マニュアル（東京法令出版）

9. 受講上の留意事項

- 1) 基本的に、当科目履修前に事前履修しておく科目として、「救急処置演習 A-I」,「蘇生処置演習」,「救急処置演習 A-II」,「外傷救急処置演習」,「救急処置演習 A-III」,「救急車内活動演習」,「解剖学」,「生理学」,「生化学」,「救急処置実習 B-I」とする。
- 2) 実習を受けるにあたり必要な書類・検査を実施し、期限内に同意書・ワクチン接種証明書・母子手帳を提出した学生のみ履修できる。また、実習前に行われるガイダンスの内容を十分理解した上で、「2. 授業の進め方」に示す事前教養を経た学生のみが、医療機関での実習を受けられる。ガイダンスで示す事項等を遵守できない場合、または事前教養で不適と認められた学生については、医療機関における実習は認めない。なお、医療機関における所要の実習を受けることができなかった学生については、単位認定を行わない。
- 3) 実習先医療機関より、実習態度不良や実習継続不能等についての連絡があった場合および、指定した服装・物品・持参書類などの不備があった場合には、所要の調査を行い、実習中止措置をとるとともに単位認定を行わない。実習修了後であっても同様とする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本演習は、公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

災害マネジメント演習		演習	准教授 甲田 智之 講師 田口 弘茂 助教 水上 治彦
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391104

1. 授業のねらい・概要

災害に備え、また発災時に迅速・的確に対応するためには、P（計画）・D（訓練）・C（評価）・A（改善）サイクルを意識した取り組みの推進が重要である。本授業では、災害による被害の軽減を主眼としたPDCAサイクルの意義を体感的に理解し、またその実践方策を修得することをねらいとする。本授業を受講した学生が将来、わが国における防災・減災に関する取り組み推進の中心的存在として活躍することを目指す。

2. 授業の進め方

過去の災害の実例等を踏まえ、グループワークやシミュレーション訓練を中心としたアクティブラーニングによる授業展開を行う。授業への取り組み姿勢に応じたグループ分けを行い、安全かつ効率的に授業を展開する。なお、安全管理や部隊活動に係る留意事項について繰り返し指摘される学生については、危険を伴う訓練には参加させない（見学のみとする）。

3. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の目的・進め方）	16. 災害対応オペレーションの実践①（参集・立ち上げ）
2. 災害マネジメント概論	17. 災害対応オペレーションの実践②（情報収集）
3. 災害現場におけるマネジメント①（基本的考え方）	18. 災害対応オペレーションの実践③（情報分析）
4. 災害現場におけるマネジメント②（指揮階層）	19. 災害対応オペレーションの実践④（情報共有）
5. 災害現場におけるマネジメント③（指揮統制）	20. 災害対応オペレーションの実践⑤（記録）
6. 災害現場におけるマネジメント④（連絡調整）	21. 災害対応オペレーションの実践⑥（資料化）
7. 災害現場におけるマネジメント⑤（安全管理）	22. 災害対応オペレーションの実践⑦（リソース配置）
8. 災害現場におけるマネジメント⑥（情報伝達）	23. グループ討議①（災害対応オペレーションの課題）
9. 災害現場におけるマネジメント⑦（状況評価）	24. グループ討議②（①により抽出した課題への対策）
10. 災害現場におけるマネジメント⑧（総合）	25. 避難所運営①（基本機能と運営上の留意事項）
11. 災害対応オペレーションの基本①（構成要素）	26. 避難所運営②（図上演習）
12. 災害対応オペレーションの基本②（情報収集・分析）	27. 総合演習①（ブロンズエリア）
13. 災害対応オペレーションの基本③（情報共有・記録）	28. 総合演習②（シルバーエリア）
14. 災害対応オペレーションの基本④（資料化）	29. 総合演習③（ゴールドエリア）
15. 災害対応オペレーションの基本⑤（リソース配置）	30. 総合演習④（総括）

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

適宜提示する事項に関する事前学習、授業内容の振り返り、資料整理、自主練習等に週 90 分以上を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

口頭や資料提示等により、個別または授業中の講義を通じて行う。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 災害対策におけるPDCAサイクルの意義・重要性について理解を深める。
- 2) 災害発生時における指揮統制・連絡調整、情報伝達、状況評価のあり方について理解を深める。
- 3) 災害現場における安全管理の重要性について理解を深める。

7. 成績評価の方法・基準

平常点（60%）および第 27 回～第 30 回の授業で実施する総合演習における活動状況（40%）により評価する。

なお、平常点は、授業態度・積極性・協調性・判断力・行動力等を踏まえて総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

適宜指定する資料

9. 受講上の留意事項

本科目は、本コースの全学生が履修しなければならない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

救助・防災演習		演習	准教授 古川 慎太郎 准教授 甲田 智之 講師 田口 弘茂	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13391105	

1. 授業のねらい・概要

救助・防災活動を行うための基礎知識・技術、規律、協調性、判断力、行動力等を修得することをねらいとする。

2. 授業の進め方

屋外または屋内での実動訓練を中心に授業を展開する。授業への取り組み姿勢に応じたグループ分けを行い、安全かつ効率的な授業展開を行う。なお、安全管理や部隊活動に係る留意事項について繰り返し指摘される学生については、危険を伴う訓練には参加させない（見学のみとする）。

3. 授業計画

1・2. オリエンテーション（授業の目的・進め方）	17・18. 救助用ロープ等の基礎知識
3・4. 規律訓練①（礼式の基本）	19・20. ロープ結索の基本（結合・結節・結着）
5・6. 規律訓練②（編成・隊形・整頓）	21・22. 救助資器材の特徴①（ロープ・スリング）
7・8. 規律訓練③（停止間の動作）	23・24. 救助資器材の特徴②（カラビナ・制動器）
9・10. 規律訓練④（行進間の動作）	25・26. 要救助者へのアプローチ・搬送
11・12. 規律訓練⑤（方向変換・隊形変換等）	27・28. 想定訓練①
13・14. 規律訓練⑥（総合）	29・30. 想定訓練②
15・16. 効果測定	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

適宜提示する事項に関する事前学習、授業内容の振り返り、資料整理、自主練習等を行う必要があり、各授業につき90分程度を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

口頭や資料提示等により、個別または授業中の講義を通じて行う。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 救助・防災活動における安全管理の重要性について理解を深め、現場活動に必要な基本知識・技術を習得する。
- 2) 救助・防災活動を行う上で不可欠な規律を身に付ける。

7. 成績評価の方法・基準

3分の1を超える欠席は、単位を与えない。

授業後に提出する実習ノートおよび授業における活動状況により評価する。（100%）

なお、活動状況は、出席状況・授業態度・積極性・協調性・判断力・行動力等を踏まえて総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

適宜指定する資料

9. 受講上の留意事項

- 1) 本科目は、本コースの全学生が履修しなければならない。
- 2) 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 3) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀、倫理感を養う。

4) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。

- a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服，黒色または紺色のTシャツ，黒色または紺色の靴下，汚れていない内履，及び名札の着用）が履行できない場合。
- b) 長い爪，髭，過度に明るく染色した頭髮，アクセサリーの着用等，社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で，相応しくないと認められる場合。
- c) 使用するテキストや資料，個人資器材（腕時計，聴診器，ペンライト，ゴーグル），その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
- d) スマートフォンなど音の出る電子機器については，電源を切ることを原則とし，これに従わない場合。
- e) 居眠りや落ち着きのない言動等，授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
- f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻，及び 30 分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は，公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。